

平成22年度

財団法人JKA補助事業

「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」
実施報告書

財団法人コンピュータ教育開発センター



この事業は競輪の補助金を受けて実施したものです。

はじめに

近年、インターネットやパソコン、携帯電話などICTが日常生活に欠かせないものとなり、子どもたちも学習や友達とのコミュニケーションなどに頻繁に利用するようになってきている。今後、インターネットやパソコン、携帯電話・PHS（以下「ケータイ」とする）などの特性を踏まえ、積極的・主体的に活用していく子どもたちを育成していくことが望まれる。

一方、インターネット上では、誹謗中傷やいわゆる「ネットいじめ」、青少年を対象とした犯罪や違法・有害情報、いわゆる「ケータイ依存」などの問題が数多く発生しており、これらの問題に適切に対応できるよう、「情報モラル」について指導することも必要となってきている。

このような状況を受け、新学習指導要領では、その総則で「情報モラルを身に付け、適切に活用できるようにする」などとして、すべての教科等においてすべての教員に情報モラル教育の実施を義務づけ、学校における情報モラル教育をさらに充実させることとした。

しかし、児童生徒のインターネット利用実態調査を見てみると、子どもたちがインターネットやパソコン、ケータイ等を利用するのは、家庭や友達の家、通学路などの学校外での使用が圧倒的に多くなっている。このような学校外でのICT利用を適切なものとするためには、学校で情報モラル教育を行うだけでなく、保護者や地域住民の方々にも「情報モラル」について理解していただき、家庭での約束づくりや地域における「見守る目」作りなどを行っていただくことが必要である。そのような家庭や地域での「情報モラル教育」の推進が喫緊の課題となっていることは、文部科学省の『教育の情報化に関する手引』で、「第5章 学校における情報モラル教育と家庭・地域との連携」としてわざわざ情報教育とは別に章を起こしていることでもわかる。このような家庭・地域と連携した情報モラル教育の実現を目指したのが、本「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」である。

平成20年度に開始された「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」も、平成22年度は3年目を迎えた。本年度は、これまでのセミナー実施の成果を集大成するべく、各委員のお骨折りにより、各学校の先生方が「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」の講師となることを可能とするための読み上げ原稿付き指導者用プレゼンテーション教材（小学校児童用・保護者用、中学校生徒用・保護者用の計4種）を作成するとともに、家庭や授業等で活用できるWeb教材「ネット社会の歩き方」（音声付き・大画面对応とするとともに、最新の状況を反映した新教材も追加）を全面改訂した。

また、セミナーの開催場所も、平成20年度の6カ所、平成21年度の14カ所からさらに実施規模を拡大し、平成22年度は15カ所として、全国各地で保護者や地域住民の方々に「情報モラル教育」の重要性とそのポイントを理解していただき、その実践の輪を広げていただくことができた。

本報告書は、これらの活動の成果と課題及びアンケート調査により明らかになった実態等について、記したものである。今後は、本事業の成果物を生かし、より多くの先生方が講師となって、家庭や地域での「情報モラル教育」がより普及していくことを期待している。

平成23年3月

「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」検討委員会委員長
鳴門教育大学准教授 藤村 裕一

目次

1. 事業概要	1
1.1 事業の目的	1
1.2 事業の内容	1
(1) 委員会の設置	1
(2) 開催地の募集	3
(3) 事前調査票による開催地の状況把握(事前アンケート)	5
(4) 開催地アンケートの実施(事後アンケート)	6
2. 情報モラル指導用教材の作成	7
2.1 指導教材作成の目的	7
2.2 作成教材	7
(1) プレゼンテーション用の教材	7
(2) プレゼンテーション補助資料	7
(3) モデル授業ビデオ	8
3. 情報モラルWeb教材の作成	9
3.1 Web教材作成の目的	9
3.2 作成内容	9
(1) 新規学習ユニットの追加	9
(2) 既存学習ユニットの改版	9
(3) 導入ページの見直し	9
4. 情報モラルセミナーの開催	11
4.1 セミナー実施概要	11
4.2 セミナー開催地一覧	12
4.3 開催地からの報告	13
5. アンケート結果分析	28
5.1 パソコン、インターネットの利用について	29
5.2 インターネット利用時の約束について	30
5.3 携帯電話の使用について	32
5.4 携帯電話利用時の約束について	34
5.5 ネット・メディア使用傾向	37
5.6 セミナーについて	38
6. セミナーを終えて 感想と今後の課題	39
7. まとめ	46
7.1 本年度の成果	46
7.2 次年度へ向けての課題	47
<付録>	49

1 . 事業概要

1 . 1 事業の目的

ネット社会の発展により、インターネット、携帯電話の利用など、日常生活が便利になる反面、プロフや無料ゲームのコミュニティサイトを利用した犯罪などが発生しており、子どもたちが巻き込まれる例も発生している。そうした状況では、自宅でのインターネット利用や一般的には学校への持ち込みが禁止されている携帯電話の使い方について、家庭（保護者）と連携した指導が必要になっている。また、今後さらに発展するネット社会に対し、ネット社会のメリットを認識し、活用してもらうと同時に、被害に遭わないための正しい知識を、子供と保護者に持ってもらうことが重要である。

本事業は、子どもたちがネット社会に正しく対応できるようになることを目的として、子どもとその親を対象に、情報モラル・セキュリティに関するセミナーを実施するものであり、同時に家庭での親子のコミュニケーションの題材や学校の先生が保護者と子どもを指導するための一助となる情報を提供するものである。

1 . 2 事業の内容

平成21年度に続き、有識者からなる委員会を設置し以下を実施した。

- ・全国15箇所の学校等において、児童生徒と保護者を対象とした「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」の実施
- ・新学習指導要領における情報モラル指導を、教員が自立して指導にあたるための指導用教材の作成と具体的な指導方法を収めたモデル授業ビデオ作成
- ・授業もしくは児童生徒の個別学習に利用できる情報モラルWeb教材の作成

(1) 委員会の設置

当財団に委員会を設置し、指導者用教材開発ワーキングとWeb教材開発ワーキングを委員会配下に設置した。また、委員会では設置したワーキンググループの活動状況の確認、セミナー開催地の採択とセミナー講師の決定、報告書の執筆、データ分析などを行った。

検討委員名簿

委員長	藤村 裕一	鳴門教育大学
委員	井上 勝	八千代松陰高等学校
	梶本 佳照	三木市立教育センター
	佐久間 茂和	台東区立東泉小学校
	高橋 邦夫	千葉学芸高等学校
	坪田 篤子	NTTコミュニケーションズ株式会社
	西田 光昭	柏市立田中小学校
	三宅 健次	千葉大学教育学部附属中学校

指導者用教材開発ワーキング名簿

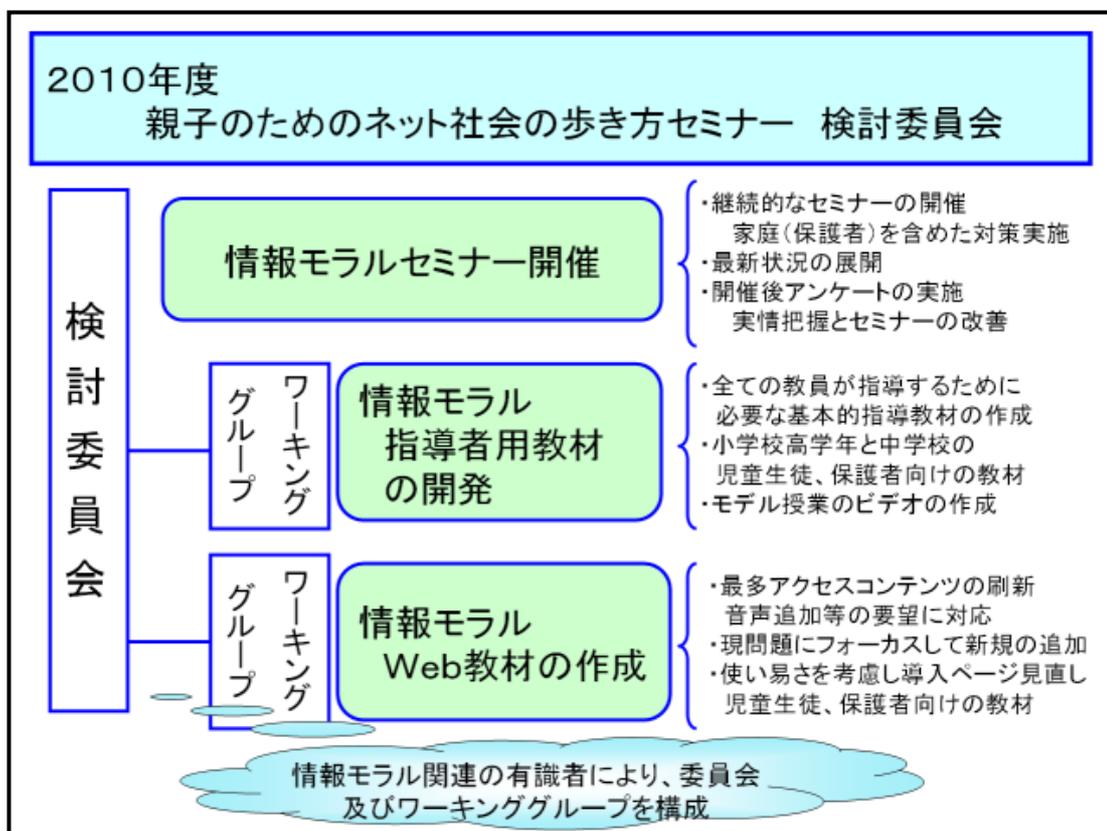
座長	佐久間 茂和	台東区立東泉小学校
委員	井上 勝	八千代松陰高等学校
	梶本 佳照	三木市立教育センター
	坪田 篤子	NTTコミュニケーションズ株式会社
親委員会委員長	藤村 裕一	鳴門教育大学

Web教材開発ワーキング名簿

座長	高橋 邦夫	千葉学芸高等学校
委員	石原 一彦	岐阜聖徳学園大学
	榎本 竜二	東京女子体育大学
	大久保 貴世	財団法人インターネット協会
	西田 光昭	柏市立田中小学校
	三宅 健次	千葉大学教育学部附属中学校
親委員会委員長	藤村 裕一	鳴門教育大学

ここでは主に「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」に関する事業内容を報告し、各ワーキングの具体的な活動内容は2及び3項で報告する。

実施概要図



(2) 開催地の募集

以下の要領で募集を行った。

- ・テーマ：「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」
- ・開催期間と開催箇所数：
平成 22 年 4 月末 ~ 平成 22 年 12 月末 15 ヶ所
(実績：平成 23 年 1 月 29 日迄 15 ヶ所で開催)
- ・受講対象者：
児童・生徒、保護者、教員、教育関係者
原則として児童生徒向けセミナー、保護者向けセミナーの同時開催とする。
児童生徒は、主として小学生高学年と中学生とする。
- ・公募対象者：
教育委員会
学校
保護者会
PTA 連合会
地域の教育関連団体
- ・募集期間：
平成 22 年 3 月 17 日(水) ~ 平成 22 年 9 月 27 日(月)
第 1 期締切日：平成 22 年 4 月 12 日(月) 採択結果通知日 4 月 19 日(月)
第 2 期締切日：平成 22 年 6 月 21 日(月) 採択結果通知日 6 月 25 日(金)
第 3 期締切日：平成 22 年 9 月 27 日(月) 採択結果通知日 10 月 1 日(金)
- ・セミナー形式
以下のモデル形態を提示した、他児童生徒、保護者同時の開催による講演会方式なども対象とした。

セミナー形態	開催時間の目安		参加人数の目安	
	児童・生徒向け	保護者向け	児童・生徒向け	保護者向け
1.授業	1H 以下	-	40 名程度	-
2.講演	1H 程度	1H ~ 1.5H	100 名以上	100 名以上
3.ワークショップ	1.5H ~ 2H	1.5H ~ 2H	100 名まで	100 名まで
4.PC 操作含む実習	1H ~ 1.5H	1H ~ 1.5H	40 名程度	40 名程度
5.その他				

「採択された開催地及び講師一覧」の表

No.	開催地	学校種別	申込種別	開催日	講師
1	松戸市立 六実小学校	小学校	P T A	平成 22 年 6 月 23 日(水) 14:30 ~ 15:15	井上委員
2	八幡市立 中央小学校	小学校	学校	平成 22 年 6 月 25 日(金) 13:35 ~ 15:40	佐久間委員
3	豊中市 教育センター	その他	教育 委員会	平成 22 年 6 月 26 日(土) 13:00 ~ 15:20	井上委員
4	つくば市 立吾妻中学校	中学校	学校	平成 22 年 7 月 13 日(火) 11:00 ~ 12:00	梶本委員
5	千葉市立 高洲第一中学校	中学校	学校	平成 22 年 7 月 14 日(水) 10:45 ~ 11:45	高橋委員
6	東郷町立 東郷小学校	小学校	学校	平成 22 年 9 月 17 日(金) 8:30 ~ 9:30	佐久間委員
7	三木市立 吉川中学校	中学校	学校	平成 22 年 10 月 2 日(土) 14:00 ~ 16:00	梶本委員
8	東北学院中学校 ・高等学校	中学校	学校	平成 22 年 10 月 15 日(金) 13:00 ~ 14:00	藤村委員長
9	樟蔭中学校	中学校	学校	平成 22 年 11 月 10 日(水) 13:45 ~ 16:00	坪田委員
10	南さつま市立 万世中学校	中学校	学校	平成 22 年 11 月 25 日(木) 13:30 ~ 15:20	藤村委員長
11	猪名川町立 六瀬中学校	中学校	学校	平成 22 年 11 月 30 日(火) 13:45 ~ 16:20	梶本委員
12	私立 羽衣学園中学校	中学校	学校	平成 22 年 12 月 14 日(火) 9:50 ~ 12:40	坪田委員
13	龍ヶ崎市立 城西中学校	中学校	学校	平成 22 年 12 月 24 日(金) 9:50 ~ 12:30	井上委員
14	練馬区立 谷原中学校	中学校	学校	平成 22 年 12 月 27 日(月) 14:00 ~ 16:00	三宅委員
15	台東区立 千束小学校	小学校	学校	平成 23 年 1 月 29 日(土) 10:25 ~ 12:00	佐久間委員

(3) 事前調査票による開催地の状況把握(事前アンケート)

内容の充実を図ると同時に、セミナー開催申請者のニーズとマッチさせるため、インターネットの利用率、携帯電話の保有率、携帯電話におけるフィルタリングの設定率などを事前に確認、本セミナー申込みのきっかけとなった動機や保護者から相談を受けた事例などを確認して、セミナーに反映させた。

事前調査票設問内容

本セミナー申込みのきっかけとなった動機、(あれば)出来事をご記入ください。

<回答例>

- ・インターネットや携帯電話からブログやプロフへの書き込み、チェーンメールのトラブルが発生した。それらの対策として本セミナーの申込みをした。
- ・情報モラルに関する専門的な知識を持つ有識者によるセミナーであったから。
- ・市の教育委員や情報担当教諭からの紹介があった。
- ・保護者からインターネットや携帯電話に対して興味を持つ子どもに対して、どう対応したらよいのか等の相談があったから。
- ・保護者からインターネットや携帯電話の適切な使い方について指導して欲しいとの要望があったから。
- ・保護者を含めてインターネットや携帯電話の適切な使い方を指導して欲しいから。
- ・一昨年も実施して、好評であったため。

今回セミナーを受講する児童生徒の家庭でのインターネット利用率はおおよそどれくらいでしょうか。

<回答内容>

インターネット利用率は56～95%との回答あった。セミナー受講後の児童及び生徒アンケート結果からは平均87%となった。家庭でのインターネット利用が一般化したと思われる。

今回セミナーを受講する児童生徒の携帯電話の保有率はおおよそどれくらいでしょうか。

<回答内容>

事前調査での携帯電話の保有率は小学校で30～64%、中学校で10～75%との回答があったが、セミナー受講後の児童及び生徒アンケート結果からは小学校41%、中学校59%であった。

携帯電話保有に関しては各地域の方針もあり、地域差が見られるが、昨年データと比較して、小学校、中学校それぞれ16%、23%増加した。

携帯電話保有率(昨年) 小学校:25% 中学校:36%

携帯電話保有者のフィルタリング設定率はおおよそどれくらいでしょうか。

< 回答内容 >

事前調査での携帯電話保有者のフィルタリング設定率は、小学校で38～77%、中学校で10～81%との回答があったが、セミナー受講後の児童及び生徒アンケート結果からは小学校20%、中学校45%となった。

ただし、小学校児童は67%、中学校生徒では36%が「わからない」と回答しており、児童及び生徒自身がフィルタリング機能を認識していない可能性があり、保護者が回答しているフィルタリング設定率、小学校78%、中学校79%が実態に近いと思われる。

保護者から相談を受けた事例がありましたら、ご記入ください。

< 回答例 >

- ・ ブログ、プロフへの書き込み、なりすまし等の畏の仕組み
- ・ チェーンメール、メールでの嫌がらせ
- ・ 携帯電話の家庭内ルールの作り方（ケータイの使いすぎ、依存症、高額料金）
- ・ ブログ、プロフの監視方法

< 付録1 . 事前調査票 書式 を参照 >

(4) 開催地アンケートの実施(事後アンケート)

- ・ アンケートは、今後さらにインターネットや携帯電話が普及した時の参考となるよう、安全で安心なICTの活用について子どもたちの現状の把握、保護者の考え方などを調査することとした。
- ・ セミナーに参加した教員に対しても指導者向けアンケートを実施した。

< 付録2 . アンケート質問票 書式 を参照 >

2. 情報モラル指導者用教材の作成

2.1 指導教材作成の目的

平成23年度からの新学習指導要領の実施に伴い各教科において情報モラルの指導が必要となり、一般の多くの教職員が自ら、自校内での情報モラル教育、指導を行うことが想定された。そこで、それら教育、指導を実施するための教材が必要であると考え、小学校と中学校の、児童・生徒と保護者向けの指導者用セミナー教材を開発することとした。

2.2 作成教材

開発する教材は、昨年度改版したセミナーテキストに沿うかたちで構成され、プレゼンテーション用の教材（読み上げ原稿及びタイムテーブル等を含む）、プレゼンテーション補助資料、ワークショップ形式で行う場合のモデル授業ビデオも作成した。

(1) プレゼンテーション用の教材

プレゼンテーション用教材はプレゼンテーションの対象者毎に、児童向け、生徒向け、小学校保護者向け、中学校保護者向けに分けて作成した。全ての教員が教材を利用できるように教材には読み上げ原稿を記述して、話の進め方を具体的に指示した。またタイムテーブルにてプレゼンテーションの時間配分例を示し、独自に内容、時間を調整（カスタマイズ）し易いようにした。



(2) プレゼンテーション補助資料

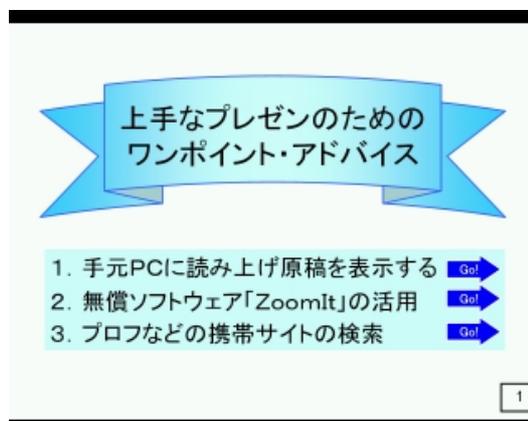
より上手に、よりわかりやすいプレゼンテーションをしてもらうワンポイントアドバイスとして、以下の補助資料を作成した。

「手元PCに読み上げ原稿を表示する方法」
PowerPoint*の機能を利用し、手元PCにだけ読み上げ原稿を表示して、上手にプレゼンテーションを進められる。

「無償ソフトウェア ZoomIt の活用方法」

ZoomIt を用いることで、画面を拡大表示した

り、画面上に下線などを書き込んだりして、ポイントを明確にしたわかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。また、ZoomIt にはカウントダウンタイマの機能もあり、グル



ープ討議の残り時間表示にも活用できる。

「プロフなどの携帯サイトの検索方法」

より現実的で身近な携帯サイトのプロフイメージ等をプレゼンテーション資料中に挿入するため、パソコンを用いて携帯サイトを検索、参照する方法を示した。これら方法によりプロフイメージの画像をパソコンに取り込む事ができる。

(3) モデル授業ビデオ

情報モラルの授業、プレゼンテーションの進め方を、より具体的なかたちで理解してもらうために、児童生徒向けと保護者向けのモデル授業ビデオをCECホームページからダウンロードして確認できるようにした。

付録に、小学校児童向けプレゼンテーション用教材イメージを掲載しました。

他の小学校保護者、中学校生徒及び中学校保護者向けプレゼンテーション用教材はCECホームページ、「ネット社会の歩き方」からダウンロードができます。

*PowerPoint は米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

3 . 情報モラルW e b教材の作成

3 . 1 W e b教材作成の目的

教員が教室で情報モラル教育を行う際の教材として、C E Cホームページ上にある「ネット社会の歩き方」(W e b教材)がこれまでも利用されている。また新学習指導要領により、各教科の中で情報モラルを指導することとなり、更にその利用は高まるものと予想された。

しかしながら、W e b教材については、時代にあった改訂がされていなかったため、全学習ユニットの更新見直しを図るとともに、新規コンテンツ開発を行った。また、子どもが学習する際に利用し易いように、全コンテンツに音声を付けた。

学習ユニット：問題提起するフラッシュコンテンツによるアニメーションとそのまとめ、及び解説を含むW e bコンテンツの学習教材

3 . 2 作成内容

(1) 新規学習ユニットの追加

昨今、実際に発生している事件、問題などから新しい学習ユニット10件を作成した。またこれら新規ユニットには、新学習指導要領における道徳での情報モラル教育のニーズに対応すべく、道徳での授業利用を前提とした学習ユニット3本を含めた。



(2) 既存学習ユニットの改版

既存のうち利用見込みの低い学習ユニット3件を外して、社会状況の変化、法令の改廃等を反映して、既存40件の学習ユニットを改訂した。既存改訂と新規作成、合わせて50件の学習ユニットは、新たにイラストを起し、要望の多かった声優による音声データも付加して、リニューアル作成した。

また、フラッシュコンテンツの学習ユニットのみでなく、レッスンキット(学習指導案・ワークシート・パワーポイントスライド)も引き続き提供することとした。



(3) 導入ページの見直し

リニューアルされた学習ユニットが、新学習指導要領のもと実施される教育現場でより使いやすいように、学習ユニットへの導入ページ(利用したい学習ユニットの探し方)も合わせて見直しを実施した。これにより、利用したい教科であった

り、指導したい内容であったり、どんな学習ユニットがあるのか、どの学習ユニットを選択すべきか、などをわかりやすくした。

ただし、リニューアルされたWeb教材のURLについては、従来の「ネット社会の歩き方」と同じとして、新たなページからも従来のコンテンツがアクセスできるようにした。

リニューアルされた「ネット社会の歩き方」のURL：<http://www.cec.or.jp/net-walk/>

4 . 情報モラルセミナーの開催

4 . 1 セミナー実施概要

本年度は、以下の地域で「親子のためのネット社会の歩き方」セミナーを実施した。

テーマ

「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」

開催時期と時間

- ・開催日 :平成22年 6月23日 ~ 平成23年 1月29日
- ・開催時間(児童生徒):45分(授業時間の範囲で実施)
(保護者):45分から170分(ワークショップ形式や講演形式)

参加者

校種別:小学校 4校
中学校 10校
教育センター 1ヶ所(PTAを中心として開催)

計15ヶ所

地域別:宮城県 1校
茨城県 2校
東京都 2校
千葉県 2校
愛知県 1校
京都府 1校
大阪府 2校、1センター
兵庫県 2校
鹿児島県 1校

計9地域

- ・児童生徒 :3、066名
- ・保護者と教職員等: 686名

開催会場

開催校及び教育センター内 体育館、ランチルーム、研修室、多目的ルーム など

4.2 セミナー開催地一覧

種別	項番	開催校	申請者	セミナー形態		参加者			
						児童生徒	保護者	教職員	教育委員会他
小学校	1	松戸市立 六実小学校	P T A	親子同 時開催	講演				
	2	八幡市立 中央小学校	学校	児童	ワークショップ				
				保護者	講演				
	3	東郷町立 東郷小学校	学校	児童	講義				
保護者				講演					
4	台東区立 千束小学校	学校	児童	授業					
			保護者	講演					
中学校	5	つくば市 立吾妻中学校	学校	親子同 時開催	講演				
	6	千葉市立 高洲第一中学校	学校	親子同 時開催	講演				
	7	三木市立 吉川中学校	学校	生徒	講義				
				保護者	講義				
	8	東北学院中学校 ・高等学校	学校	親子同 時開催	講演				
	9	樟蔭中学校	学校	生徒	講義				
				保護者	講義				
	10	南さつま市立 万世中学校	学校	生徒	講演				
				保護者	講演				
	11	猪名川町立 六瀬中学校	学校	生徒	講演				
保護者				ワークショップ					
12	私立羽衣学園 中学校	学校	生徒	講義					
			保護者	ワークショップ					
13	龍ヶ崎市立 城西中学校	学校	親子同 時開催	講演					
14	練馬区立 谷原中学校	学校	生徒	授業					
			保護者	授業					
教育 委員	15	豊中市 教育センター	教育 委員会	児童生徒	授業(PC 含)				
				保護者	講義				

4.3 開催地からの報告

開催校	千葉県松戸市立六実小学校
開催日時	平成22年6月23日(水) 14:30~15:15
セミナー会場	千葉県松戸市立六実小学校 体育館
受講者数	児童生徒：93名 保護者：43名 指導者：5名
セミナー形態	児童・保護者向け 講演形式
アンケート回収数	児童生徒：93名 保護者：34名 指導者：3名
開催地の感想	<p>今はネットやケータイ電話での犯罪の低年齢化が問題になっていますが、子ども達は何が良くて、何が悪いのかを解らずにケータイやネットを使っています。</p> <p>今回、このような講演をしていただき、今まで無意識に、好きなようにネットやケータイを使ってきた子供達も、考えながら使用してくれるようになると思います。</p> <p>又、子供達にわかりやすい内容で講演していただいて大変ありがとうございました。</p>
セミナー風景	

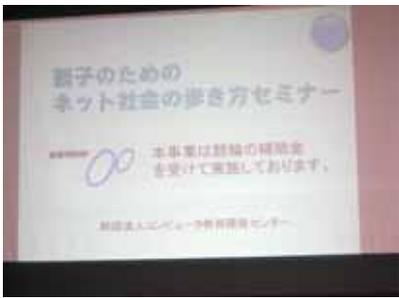
開催校	京都府八幡市立中央小学校
開催日時	平成22年6月25日(金) 13:35~15:40
セミナー会場	京都府八幡市立中央小学校 ランチルーム
受講者数	児童生徒：50名 保護者：15名 指導者(校内教員、保育所、中学校、教育委員会)：10名
セミナー形態	児童向け ワークショップ形式、保護者向け 講演形式
アンケート回収数	児童生徒：47名 保護者：8名 指導者：6名
開催地の感想	<p>ワークショップ形式の学習は児童にとって新鮮であったと思う。昨年度から数回にわたり情報モラルに関する指導を行っているが、インターネット教材を活用したものや講義形式であったので、今回の形式は児童の考えを深めるきっかけになったと思う。</p> <p>ただ、客観的に児童の様子を観察していると、知識としての善悪はすでに知っていて、実践できるかどうかの段階にさしかかっていることに改めて気付かされた。</p> <p>まずは、情報モラルに関する知識を得ることは必要なことなので、今回のセミナーはすべての児童に正しい知識を周知徹底させるという意味では有効であったと思う。今後の児童の実践に期待するとともに、継続的に正しい情報を与えていきたい。</p> <p>保護者に関しては、聞いてほしい方ほど授業参観後、セミナーに参加せずに帰宅され、参観すら出てきていただけなく残念な結果に終わった。</p> <p>アンケート結果からケータイに関して、家庭でルールを決めているという結果であるが、実態はきちりとした誓約ができていないようであり、この部分の啓発を今後していきたい。</p> <p>貴重なセミナーをありがとうございました。今後、児童だけでなく、保護者に向けて、機会あるごとに正しい知識として伝達していきたいと思います。</p>
セミナー風景	

開催校	愛知県東郷町立東郷小学校
開催日時	平成22年9月17日(金) 8:30~9:30
セミナー会場	愛知県東郷町立東郷小学校 体育館
受講者数	児童生徒：92名 保護者：45名 指導者：2名
セミナー形態	講義形式 児童+保護者 保護者 の2部形式
アンケート回収数	児童生徒：92名 保護者：30名 指導者：2名
開催地の感想	<p>イラスト入りのテキストで、子ども達は興味をもって取り組むことができた。</p> <p>携帯電話については、よい面、悪い面両方あるということを繰り返し話していただいたこともあり、ただ単に恐怖心をうえつけるのではなく、上手に使いこなすという視点を、子どもたちがもてたように思う。</p> <p>保護者にも携帯電話などについて考えるよい機会になった。また、子どもとこれらのことについて会話をするよい機会になった。</p>
セミナー風景	

開催校	東京都台東区立千束小学校
開催日時	平成23年1月29日(土) 10:25~12:00
セミナー会場	東京都台東区千束小学校校内 多目的ルーム
受講者数	児童生徒：36名 保護者：7名 指導者：2名
セミナー形態	講義形式 1時間目は親子対象に実施 2時間目は親対象に資料やプレゼンテーションを見て実施
アンケート回収数	児童生徒：36名 保護者：7名 指導者：2名
開催地の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にICTの便利な面と危険な面とを両面分かりやすく説明していただいたので、上手に使っていく方法を理解することができた。 ・親子一緒に講義を受けることで、共通の認識に立って家庭でのルールを決めることができるので、とてもよかった。 ・保護者の参加が少なく非常に残念だった。是非、全員の児童と保護者が参加できるように啓発していきたい。
セミナー風景	

開催校	茨城県つくば市立吾妻中学校
開催日時	平成22年7月13日(火) 11:00~12:00
セミナー会場	茨城県つくば市立吾妻中学校 体育館
受講者数	児童生徒：373名 保護者：15名 指導者：27名
セミナー形態	一斉講演型
アンケート回収数	児童生徒：369名 指導者：11名 指導者：19名
開催地の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士で話し合う場面を設定し、「ルール」について考える時間があつたので、生徒もただ話を聞くだけでなく積極的に参加できた。 ・保護者アンケートを見ても、「ルールを考える取り組みはやってみたい」という答えがあり、意識の変容が感じられる。ただ、現実としてはすべての家庭では難しい取り組みだと感じた。 ・あるものの使い方として教えていく必要性を強く感じた。同時に、販売する側の責任として問題を提起する必要もあるのではないかと疑問を感じる。 ・海外のケータイは通信機能のみのものが多い。また、カラーなども大人向けのものが多い。日本のケータイの機能削減も目指していいのではないか。 ・PCやケータイ、情報端末等今までなかったものへの対応と親の意識を高めていくことが重要だとも感じている。 ・実物投影機がうまく機能せず、お手数をおかけしました。
セミナー風景	

開催校	千葉市立高洲第一中学校
開催日時	平成22年7月14日(水) 10:45~11:45
セミナー会場	千葉市立高洲第一中学校 体育館
受講者数	児童生徒：426名 保護者：3名 指導者：13名
セミナー形態	児童・保護者向け 講演形式
アンケート回収数	児童生徒：426名 保護者：3名 指導者：13名
開催地の感想	<p>高橋講師の話は、わかりやすく、生徒への危険のシグナルも含んでいたため大変よかった。</p> <p>ネット社会の危険を知るためには、小学生段階が必要と痛感している。中学生では遅い。でも、中学生でも必要性は大である。</p>
セミナー風景	

開催校	兵庫県三木市吉川中学校
開催日時	2010年10月2日(土) 14:00~16:00
セミナー会場	兵庫県三木市立吉川中学校 体育館
受講者数	児童生徒：300名 保護者：60名 指導者：25名
セミナー形態	講義形式 前半は生徒・保護者対象の講義 後半は保護者対象の講義
アンケート回収数	児童生徒：243名 保護者：21名 指導者：16名
開催地の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットを拡大提示しながらの説明や具体的な事例を元にした講義であったので、生徒の興味を引く内容でわかりやすかったと思います。 ・講義形式であったため、集中力のない生徒が途中から私語をしてしまう姿が見られました。生徒の活動ができるような展開があればいいなと思いました。 ・保護者向けの内容があったので、各家庭でも考えてもらう機会になったと思います。 ・事例のビデオは非常にわかりやすく、身近な課題として生徒も保護者も考えられたと思います。これを機会に自分の周りにあるネットの使用方法を考えたいという感想も生徒の中にはありました。
セミナー風景	 

開催校	東北学院中学校・高等学校（宮城県）
開催日時	平成22年10月15日（金） 13:00～14:00
セミナー会場	東北学院中学校・高等学校 礼拝堂
受講者数	生徒：500名 保護者：150名 教員：25名
セミナー形態	児童生徒向け・保護者向け同時開催セミナー形式
アンケート回収数	児童生徒：437名 保護者：80名 指導者：21名
開催地の感想	<p>本校の携帯電話やインターネットの使用実態にあわせた内容で講演をしていただき、非常に有意義なものであった。</p> <p>生徒と保護者に同時に講演していただき、親子の共通理解を得ることができたと思う。</p> <p>講演者からの一方的な講話ではなく、生徒を動かし生徒が考え生徒が発表する形でセミナーを開催していただき、生徒が考えながら話を聞くことができ有意義であった。</p> <p>生徒・保護者だけでなく教員も話を聞くことが出来、生徒の置かれている実態を知ることが出来、今後の指導の参考となった。</p>
セミナー風景	

開催校	樟蔭中学校・高等学校（大阪府）
開催日時	平成22年11月10日（水）13：45～16：00
セミナー会場	樟蔭中学校 本校会館
受講者数	生徒児童：301名 保護者：12名 指導者：18名
セミナー形態	講義形式
アンケート回収数	児童生徒：301名 保護者：0名 指導者：18名
開催地の感想	全体的にわかり易い説明でしたが、後半で他校の生徒の現状（携帯電話を学校に預ける手段など）を話されましたが、携帯電話所持を禁止している本校の指導に沿わない内容だったと思います。また、ケータイはあくまでも連絡をする手段のものであることを強調していただきたかったです。
セミナー風景	 

開催校	鹿児島県南さつま市立万世中学校
開催日時	平成22年11月25日(木) 13:30~15:20
セミナー会場	鹿児島県南さつま市立万世中学校 体育館
受講者数	生徒児童：233名 保護者：55名 教職員：18名
セミナー形態	生徒向け 講演 13:30~14:30 保護者向け 講演 14:35~15:35
アンケート回収数	児童生徒：232名 保護者：27名 指導者：14名
開催地の感想	<p>新年度になり、女子生徒が開設したブログへの書き込みを巡り生徒間のトラブルが発生したり、男子生徒が開設した裏サイトに教員を誹謗中傷する文章が書きこまれたりする事象が発生した本校にとって、講師の藤村先生の資料を交えた丁寧で分かりやすい説明は生徒や保護者はもちろん、本校職員にとってもネット社会における望ましいICT活用のあり方を学ぶ貴重な機会となりました。</p> <p><生徒感想より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ケータイを買ってもらったときはフィルタリングをつける。 ・ インターネットやケータイを使うときのルールを家族で決める。 ・ 住所などの個人情報を簡単に入力してはいけないと思った。 ・ 好奇心だけでいろいろなサイトを開かないようにする。 ・ ケータイとか持ったらチェーンメールとかは避けたい。 ・ 勝手にサイトなどで登録をしない ・ 携帯電話を持たないというのもいい手段だと思った。 <p><保護者感想より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話しに引き込まれてしまいました。 ・ 現在一番問題(社会現象)になっていることなので、とても勉強になりました。" ・ 保護者向けの話しは内容が具体的でよかった。 ・ とてもよいお声で分かりやすくフレンドリーにお話ししてくださりありがとうございました。 ・ 「禁止にする」のではなく、「正しく使えるようにすること」を考えて行きたいと思いました。 ・ 親子で話し合う時間をとるといったことが必要だと感じた。
セミナー風景	 

開催校	兵庫県猪名川町立六瀬中学校
開催日時	平成22年11月30日(火) 13:45~16:20
セミナー会場	兵庫県猪名川町立六瀬中学校 体育館(生徒講演会) 新館会議室(保護者向けワークショップ)
受講者数	児童生徒：135名 保護者：20名 指導者：16名
セミナー形態	生徒向け講演会 保護者・教職員ワークショップ
アンケート回収数	児童生徒：133名 保護者：20名 指導者：9名
開催地の感想	<p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・まあまあ楽しかった。 ・便利なものにはだめなところがあるので便利なものを使うときには気をつけようと思います。 ・周りの友達に気をつけるところなどを教えようと思います。 ・相手の気持ちを今より考えていきたいです。 ・使う方を見直してみようと思った。 ・困ったときには親としっかり相談したいと思いました。 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの学生の時にはなかったネットなので、知らない単語がいっぱいあってびっくりしました。保護者も少し学んで子どもに指導しなければならぬと思いました。 ・動画を見られたのが良かったです。いじめる側の問題にも踏み込んでいて良かったです。 ・とてもよくわかりました。ありがとうございました。 ・親子のコミュニケーションが大切だと感じました。 <p><教職員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを用いてわかりやすく、関心の持てる内容であったが話の仕方がもう少し伝わるようにして頂ければ。 ・この学習をもとに保護者との情報交流を活発にして指導に役立てたい。 ・動画を使った説明が大変わかりやすく、指導実践意欲が高まった。
セミナー風景	 

開催校	羽衣学園中学校（大阪府）
開催日時	平成22年12月14日（火）9：50～12：40
セミナー会場	羽衣学園中学校 小ホール、 情報教室
受講者数	児童生徒：50名 保護者：2名 指導者：4名
セミナー形態	生徒：講義形式 保護者、教員：講義とワークショップ形式
アンケート回収数	児童生徒：50名 保護者：0名 指導者：2名
開催地の感想	<p>高度に発達した情報化社会は、利用者により効果をもたらす光の部分と、利用者に害をもたらす影の部分があります。このように新しいメディアが独自の社会を形成しつつある一方、教育現場では、これらのメディアは適切に取り上げられていない場合が多いと感じています。特にインターネットや携帯電話など日常生活と学校での生活環境の間にギャップが深まってきていることは否定できない。このセミナーを通して社会生活の中でのネットワーク利用の利便性、新しい技術、活用の際の危険性について指導いただき、教員、生徒、保護者が学習することにより、今後新しいメディアとどのような関係性を持ちうるのか、マナーやモラルについてもあわせてともに学びあうスタートになったことは間違いないと思います。</p> <p>講師の先生には、いろいろと最新の資料などをご用意いただき生徒だけでなく保護者、教員も大変参考になりました。</p>
セミナー風景	

開催校	茨城県龍ケ崎市立城西中学校
開催日時	平成22年12月24日(金) 9:40~10:30
セミナー会場	体育館
受講者数	児童生徒：450名 保護者：20名 指導者：30名
セミナー形態	講義形式 児童と保護者同時受講
アンケート回収数	児童生徒：394名 保護者：11名 指導者：21名
開催地の感想	<p>当校では毎年安全教育ということで警察などにネットパトロールなどの指導に来て貰っている。</p> <p>今年度はこの親子のためのネット社会の歩き方セミナーを教育委員会より紹介され応募した。</p> <p>中学校3年生くらいになると学校への携行は許可をしていなくても、家庭で携帯電話を持たせるケースが増えてきています。これから携帯することになる1年生、2年生などにも丁度よいタイミングでの指導であった。</p> <p>インターネットや携帯電話でのいじめ、チェーンメールや迷惑メールなどへの対応、掲示板への書き込みは匿名であっても記入者、投稿者は特定できるので、顔が見えないからと言って誹謗中傷など書き込みを行わないようにといったことが生徒によく理解された。</p> <p>また、講師の資料が分かり易く生徒だけではなく、教員にも大変参考となりました。</p>
セミナー風景	 

開催校	練馬区立谷原中学校
開催日時	平成22年12月27日(月) 14:00~16:00
セミナー会場	多目的ルーム
受講者数	児童生徒：15名 保護者：11名 指導者：2名
セミナー形態	講義形式 児童 保護者 の2部形式
アンケート回収数	児童生徒：15名 保護者：9名 指導者：0名
開催地の感想	<p>インターネットや携帯電話を使う時などの約束を親と決めること、チェーンメール等が送られてきたら他人に送る前に考えて本当に送っていいのか、困らないか考えるようにしたいなど、生徒が自分で考え行動する力がついた。</p> <p>また、保護者も携帯電話のゲームや掲示板などから子どもが危険にさらされるなど具体的な数字の資料を示してご説明いただいたので、知らなかった面を知らされて、今後家庭での話し合いを持つことが重要だと理解していただいた。</p> <p>インターネットや携帯電話にはいい面、悪い面があるが、正しく活用することが重要なこと、掲示板などに無記名だからと言って無責任な書き込みをしても投稿者は特定できることなどから、ルールを正しく守って活用することがよく理解できた。</p>
セミナー風景	

開催校	豊中市教育センター
開催日時	平成22年6月26日(土) 13:00~15:20
セミナー会場	豊中市教育センター
受講者数	児童生徒：12名 保護者：27名 指導者：4名
セミナー形態	子ども向けセミナー PC室でインターネットに接続して実習 保護者向けセミナー 研修室で講義
アンケート回収数	児童生徒：12名 保護者：9名 指導者：4名
開催地の感想	<p>今回のこのセミナーは、参加希望者を公募しましたが、応募人数が少なかったことが予想外でした。関心の高い人は過去に同様のセミナーを受けたことがある、興味のない人は、まったく危機感がない、というように両極端に2分されてしまっているかのような印象を受けました。</p> <p>今回、教員はもちろん、子どもたちの放課後の指導員、指導ルームの方などを対象にこの催しの案内をいたしました。</p> <p>また、市の広報誌への掲載だけでなく、子どもの持ち帰りピラも豊中市の小学校5年～中学校3年までの全員（私学3校、附属池田小学校、中学校も含む）に対する計約27500枚配付し、PTA関係にも依頼、駅、公共施設などにもポスター掲示をしましたが、反応はいま一つでした。</p> <p>無関心層にどれだけ興味、危機感を持ってもらうか、が大きな課題であるように感じました。しかしながら、参加された方たちは、皆さんためになった、と感じておられ、大変有意義な会であったと思っております。</p> <p>ネットの安全性等についての講座は、教育委員会内では、児童生徒指導系の部署と、情報教育系の部署とが関わっており、どちらの部署でどんなことを行っていくのか、連携を持つ必要性を感じました。今回のセミナーでは、前述したように、指導ルーム等の指導系の部署（豊中市では補導センターといいます）とも連携して広報に努めました。また、PTA関係の部署（地域教育課）にもピラの配付依頼をする等、連携しました。しかし、教育委員会主催で行うには、実施日が土曜日であるため、教員への動員もかけにくく、PTA関係にも直接の声掛けがしづらいので、大変苦慮しました。</p> <p>全国的に情報モラル教育を進めていくためには、各学校で、その学校のPTAや地域の団体等に動員を依頼するようなやり方のほうが効果的なかもしれません。</p>
セミナー風景	

5 . アンケート結果分析

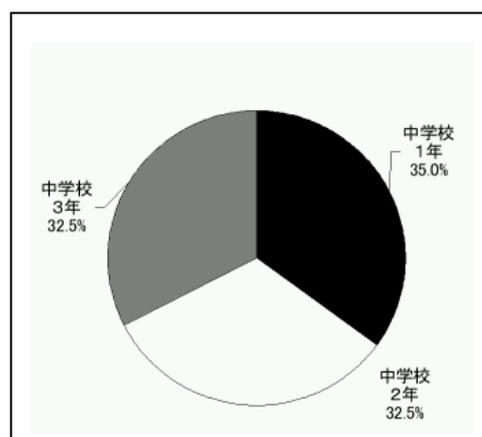
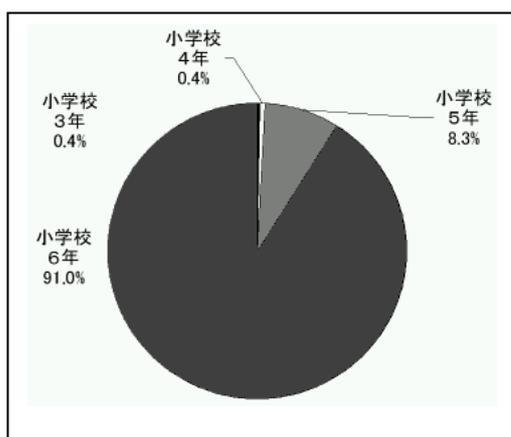
「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」を開催後に実施したアンケートの児童、生徒の数は以下ようになる。昨年度は小学校児童617、中学校生徒945の回収数があり、今年度は、小学校が4割、中学校は3倍弱の回収数となっている。また、小学校対象者は、5・6年生で9割以上を占めており昨年度とほぼ同等であるが、中学校対象者は1から3年生それぞれ30%超で同じような比率となっている。(昨年度、中学校対象者は3年生が50%以上を占めていた。)

表1 アンケート対象者(児童・生徒)

	小学校 1年	小学校 2年	小学校 3年	小学校 4年	小学校 5年	小学校 6年	未回答	合計	比率
男子	0人	0人	1人	0人	11人	120人	0人	132人	47.5%
比率	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	47.8%	47.4%	0.0%	100.0%	
女子	0人	0人	0人	1人	12人	130人	0人	143人	51.4%
比率	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	52.2%	51.4%	0.0%	100.0%	
未回答	0人	0人	0人	0人	0人	3人	0人	3人	1.1%
比率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	100.0%	
合計	0人	0人	1人	1人	23人	253人	0人	278人	100.0%
比率	0.0%	0.0%	0.4%	0.4%	8.3%	91.0%	0.0%	100.0%	
	中学校 1年	中学校 2年	中学校 3年				未回答	合計	比率
男子	443人	420人	471人				0人	1334人	51.3%
比率	48.6%	49.7%	55.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
女子	466人	417人	363人				0人	1246人	47.9%
比率	51.1%	49.3%	43.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
未回答	3人	8人	11人				0人	22人	0.8%
比率	0.3%	0.9%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
合計	912人	845人	845人				0人	2602人	100.0%
比率	35.0%	32.5%	32.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	

アンケートに回答頂いた児童生徒全員が対象

児生Q1



グラフ1 対象者の学年比率(小学校)

グラフ2 対象者の学年比率(中学校)

5.1 パソコン、インターネットの利用について

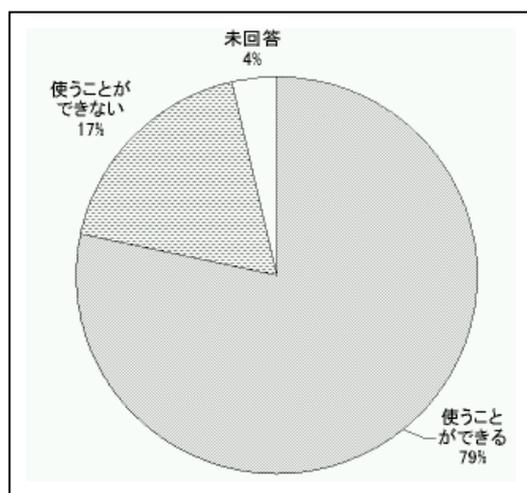
「家庭でコンピュータ、インターネットの利用ができるか」という問いについては、小学校児童、中学校生徒それぞれ8割前後の家庭で使うことが出来るとの回答が得られた。昨年度回答と比較すると、小学校児童では8%、中学校生徒で3%程度、利用可能な家庭が増えており、コンピュータ、インターネットを利用できる環境が更に一般的なものとなっている。

表2 家庭でコンピュータ、インターネットを利用できるか

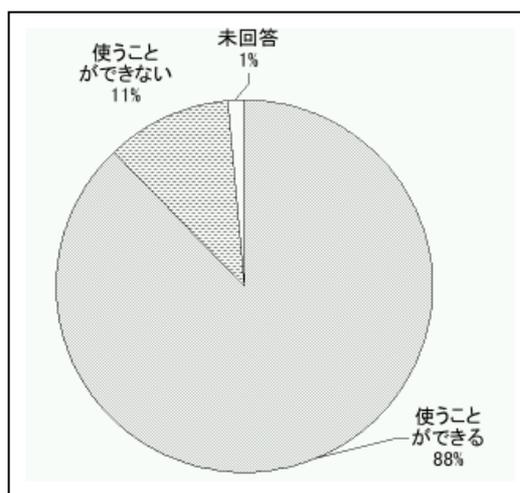
	小学校		中学校		小中学校	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
使うことができる	218人	78.4%	2283人	87.7%	2501人	86.8%
使うことができない	50人	18.0%	283人	10.9%	333人	11.6%
未回答	10人	3.6%	36人	1.4%	46人	1.6%
合計	278人	100.0%	2602人	100.0%	2880人	100.0%

アンケートに回答頂いた児童生徒全員が対象

児生Q3



グラフ3 利用できる比率（小学校）



グラフ4 利用できる比率（中学校）

表4 あなたの知っていた言葉は

校種	員数	ブログ	プロフ	チャット	掲示板 サイト	学校裏 サイト	フィルタ リング	2ちゃん ねる	出会い系 サイト	ネット ゲーム	www	URL	プロ トコル	Twitter	
小学校	男子	112人	34人	74人	62人	34人	34人	28人	59人	102人	32人	12人	3人	13人	
		132人	84.8%	25.8%	56.1%	47.0%	25.8%	21.2%	44.7%	77.3%	24.2%	9.1%	2.3%	9.8%	
	女子	130人	73人	79人	77人	71人	36人	45人	89人	109人	37人	23人	6人	21人	
		143人	90.9%	51.0%	55.2%	53.8%	49.7%	25.2%	31.5%	62.2%	76.2%	25.9%	16.1%	4.2%	14.7%
	未記入	1人	1人	1人	1人	1人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	1人	
	3人	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%		
計	243人	108人	154人	140人	106人	70人	73人	149人	212人	69人	35人	9人	35人		
	278人	87.4%	38.8%	55.4%	50.4%	38.1%	25.2%	26.3%	53.6%	76.3%	24.8%	12.6%	3.2%	12.6%	
中学校	男子	1243人	851人	978人	1021人	848人	827人	669人	1000人	1085人	548人	610人	129人	571人	
		1334人	93.2%	63.8%	73.3%	76.5%	63.6%	62.0%	50.1%	75.0%	81.3%	41.1%	45.7%	9.7%	42.8%
	女子	1207人	1004人	940人	1038人	982人	612人	566人	1081人	971人	479人	615人	74人	572人	
		1246人	96.9%	80.6%	75.4%	83.3%	78.8%	49.1%	45.4%	86.8%	77.9%	38.4%	49.4%	5.9%	45.9%
	未記入	18人	16人	17人	17人	13人	9人	11人	15人	18人	5人	8人	2人	7人	
	22人	81.8%	72.7%	77.3%	77.3%	59.1%	40.9%	50.0%	68.2%	81.8%	22.7%	36.4%	9.1%	31.8%	
計	2468人	1871人	1935人	2076人	1843人	1448人	1246人	2096人	2074人	1032人	1233人	205人	1150人		
	2602人	94.9%	71.9%	74.4%	79.8%	70.8%	55.6%	47.9%	80.6%	79.7%	39.7%	47.4%	7.9%	44.2%	
小中学校	合計	2711人	1979人	2089人	2216人	1949人	1518人	1319人	2245人	2286人	1101人	1268人	214人	1185人	
	2880人	94.1%	68.7%	72.5%	76.9%	67.7%	52.7%	45.8%	78.0%	79.4%	38.2%	44.0%	7.4%	41.1%	

アンケートに回答頂いた児童生徒全員が対象

児生Q2

コンピュータ、インターネットに関して「あなたの知っていた言葉は？」という問いについては、

小学校児童では「ブログ(87.4%)」「ネットゲーム(76.3%)」、中学校生徒では「ブログ(94.9%)」について知っている比率が高くなっている。また、小学校児童と中学校生徒との間で、既知の比率に差がある言葉には「プロフ」「掲示板サイト」「Twitter」「URL」等があり、中学校になるにつれて、コンピュータ、インターネットを情報収集、コミュニケーションのツールとしても利用していることが伺われる。

5.2 インターネット利用時の約束について

約8割以上の小学校児童、中学校生徒が、家庭でコンピュータ、インターネットを利用できるという環境下で、それらを使うときの約束があるかどうかを、その保護者も加え質問した。その結果が以下のようなった。

小学校、中学校共に約7割の保護者が、コンピュータ、インターネットを利用するときの約束を決めていると回答しているにもかかわらず、児童・生徒の6割強は約束を決めていないと回答しており、親の認識「約束をした」に対し、子どもは「約束していない」と認識している。

表5 家庭でコンピュータやインターネットを使うときの約束を決めていますか(児童・生徒)

	小学校		中学校		小中学校	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
約束を決めている	91人	41.7%	740人	32.4%	831人	33.2%
約束を決めていない	124人	56.9%	1520人	66.6%	1644人	65.7%
未回答	3人	1.4%	23人	1.0%	26人	1.0%
合計	218人	100.0%	2283人	100.0%	2501人	100.0%

パソコン、インターネットを利用できる児童・生徒が対象

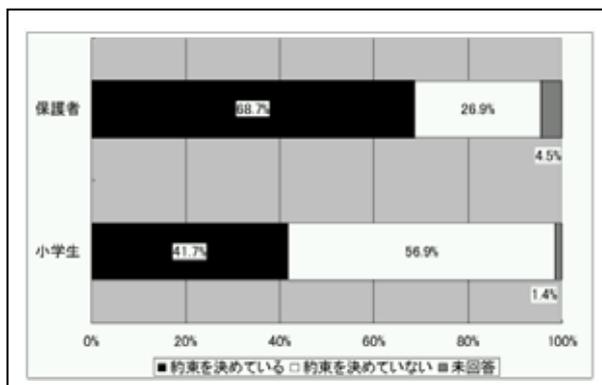
児生Q4

表6 家庭でコンピュータやインターネットを使うときの約束を決めていますか(保護者)

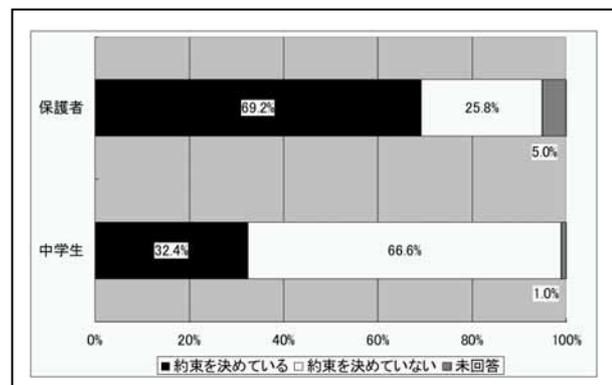
	小学校		中学校		小中学校	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
約束を決めている	46人	68.7%	110人	69.2%	156人	69.0%
約束を決めていない	18人	26.9%	41人	25.8%	59人	26.1%
未回答	3人	4.5%	8人	5.0%	11人	4.9%
合計	67人	100.0%	159人	100.0%	226人	100.0%

パソコン、インターネットを利用できる家庭が対象

保Q5



グラフ5 約束有無の比率(小学校)



グラフ6 約束有無の比率(中学校)

同様にコンピュータやインターネットを使うときの約束について、家庭内で話し合っているかの問いについては、以下のような回答が得られた。

小学校、中学校共に9割前後の保護者が、約束について「よく話している」もしくは「たまに話す」と回答しているにもかかわらず、4割強の児童・生徒が「約束について話したことはない」と回答しており、認知の違いが見られる。

表7 家族でコンピュータやインターネットを使うときの約束について話し合っていますか
(児童・生徒)

	小学校		中学校		小中学校	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
よく話している	7人	3.2%	87人	3.8%	94人	3.8%
たまに話す	113人	51.8%	1086人	47.6%	1199人	47.9%
話したことはない	94人	43.1%	1081人	47.3%	1175人	47.0%
未回答	4人	1.8%	29人	1.3%	33人	1.3%
合計	218人	100.0%	2283人	100.0%	2501人	100.0%

パソコン、インターネットを利用できる児童・生徒が対象

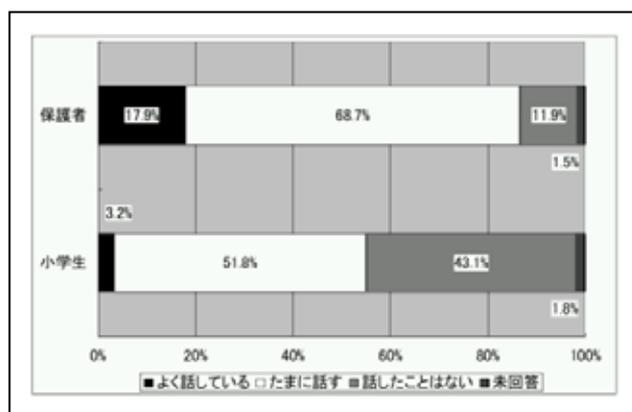
児生Q5

表8 家族でコンピュータやインターネットを使うときの約束について話し合っていますか
(保護者)

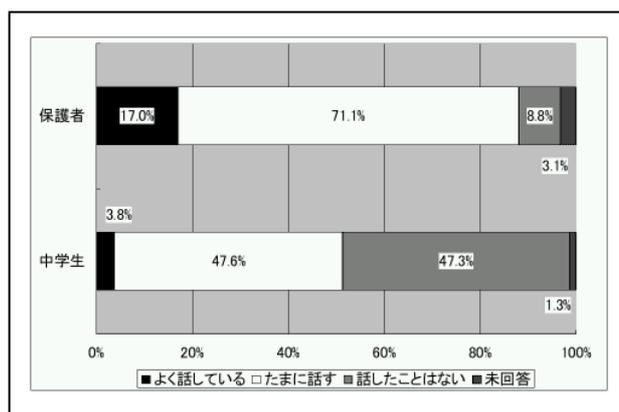
	小学校		中学校		小中学校	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
よく話している	12人	17.9%	27人	17.0%	39人	17.3%
たまに話す	46人	68.7%	113人	71.1%	159人	70.4%
話したことはない	8人	11.9%	14人	8.8%	22人	9.7%
未回答	1人	1.5%	5人	3.1%	6人	2.7%
合計	67人	100.0%	159人	100.0%	226人	100.0%

パソコン、インターネットを利用できる家庭が対象

保Q6



グラフ5 約束の話しをしますか(小学校)



グラフ6 約束の話しをしますか(中学校)

コンピュータ、インターネットの利用に際して、「約束を決めているか」「約束について話し合っているか」の問いに対し、児童・生徒と保護者の認知の違いは、昨年度もまったく同様の傾向が見られた。保護者に対して、子どもとコンピュータ、インターネットを上手に利用するための話し合いをする機会をつくり、ルール作りを行うよう、更に継続して働きかける必要がある。

5.3 携帯電話の使用について

携帯電話の保有率については、小学校児童は43.5%、中学校生徒は59.1%であった。昨年度の同データについては、小学校児童は25.3%、中学校生徒は36.0%となっており、児童・生徒それぞれ18%と23%の保有率増加となっている。

保有する時期(タイミング)については、小学校では4年生がピークで26.4%、中学生では1年生で28.5%となっており、中学校1年生(中学校入学)が最も大きな保有するきっかけとなっているのは昨年度と同様であるが、低学年から保有する傾向が更に高くなっている。

表9 あなたは携帯電話を持っていますか(児童・生徒)

小学生児童 携帯電話を...	回答数	比率	持った学年	回答数	比率
持っている	121人	43.5%	1年生	17人	14.0%
			2年生	11人	9.1%
			3年生	20人	16.5%
			4年生	32人	26.4%
			5年生	23人	19.0%
			6年生	13人	10.7%
持っていない	154人	55.4%			
未回答	3人	1.1%	未回答	5人	4.1%
計	278人				

アンケートに回答頂いた児童生徒全員が対象 児生Q6

中学生生徒 携帯電話を...	回答数	比率	持った学年	回答数	比率
持っている	1538人	59.1%	1年生	54人	3.5%
			2年生	48人	3.1%
			3年生	116人	7.5%
			4年生	197人	12.8%
			5年生	227人	14.8%
			6年生	318人	20.7%
			中学1年生	439人	28.5%
			中学2年生	94人	6.1%
			中学3年生	28人	1.8%
持っていない	1046人	40.2%			
未回答	18人	0.7%	未回答	17人	1.1%
計	2602人				

アンケートに回答頂いた児童生徒全員が対象 児生Q6

携帯電話の主な用途については、自由記述形式で確認した。それら回答中にキーワードが何回出現しているのかカウントし、キーワードの出現回数とキーワードの属性を分けることで、小学校と中学校別に使用方法の傾向を確認した。まず、利用する通信サービル及び接続先については、小学校、中学校共に「メール」「電話」「インターネット」の順位になった。しかし、小学校に比べ、中学生は「メール」と「電話」の出現数に差があり、より「メール」での利用傾向の方が高いことが予想される。また、「サイト」「ネット」等々の出現数も加味すると、中学校での「インターネット」の利用傾向は、小学校の段階とから比較して、大きく高まると判断される。

次に、携帯電話の利用機会であるが、小学校、中学校共に、「連絡」「習い」「帰り」のキーワードが並んだ。次の通信相手では「友達」「家族」が小学校、中学校で順序が逆に並んだ。中学校で

は「家族」に比べ「友達」の出現数が2倍以上あり、利用機会の「連絡」も、中学校では「友達」との「連絡」が多いと予想される。さらに、携帯電話での通信外機能の利用については、小学校では「カメラ」「GPS」「ゲーム」が上位に、中学校では「ゲーム」「カメラ」「音楽」となり、順位及び項目の違いが見られるものの、類似したキーワードが見られる。

表10 携帯電話について、あなたは主にどのような使い方をしていますか

小学校

属性	キーワード	出現数
通信サービス 及び接続先	1 メール	72
	1 電話	72
	3 インターネット	4
	4 写メ	3
	4 サイト	3

属性	キーワード	出現数
利用機会	1 連絡	12
	2 習い	8
	3 帰り	6

属性	キーワード	出現数
通信相手	1 家族(両親)	21
	2 友達	17

属性	キーワード	出現数
通信外機能	1 カメラ	6
	1 ゲーム	6
	3 GPS	3
	3 時間(時計)	3
	5 アラーム	2
5 音楽	2	

児Q7

中学校

属性	キーワード	出現数
通信サービス 及び接続先	1 メール	1062
	2 電話	821
	3 インターネット	96
	4 サイト	64
	5 ネット	53
	6 iモード・EZWeb	30
	7 ブログ	21
	8 ゲームサイト	13
	9 調べ	10
	10 ニュース	8

属性	キーワード	出現数
利用機会	1 連絡	268
	2 習い(事の終わりを連絡)	19
	3 帰りの(連絡)	18
	4 普通	15
	5 (習い事等の)送り迎え	13
	6 帰る	10
	7 学校(からの帰りを連絡)	8
	8 クラブ(の連絡)	7
	9 待ち合わせ	6
9 電車(の到着を)	6	

属性	キーワード	出現数
通信相手	1 友達	199
	2 家族(両親、兄弟)	88

属性	キーワード	出現数
通信外機能	1 ゲーム	83
	2 カメラ	53
	3 音楽	50
	4 画像	23
	5 アラーム	19
	6 写真	18
	6 時計・目覚まし	18
	8 ワンセグ	12
	9 アプリ	8
	10 電卓	7
	11 テレビ	6

生Q7

また、男子女子での傾向の違いに着目して整理し、以下のようなデータを抽出した。携帯電話の保有率は、小学校、中学校共に女子が高く、女子は小学校段階で50%以上、中学校では70%近くが保有している。

表11 男女毎の携帯電話保有

	小学校			中学校		
	男子	女子	男子+女子	男子	女子	男子+女子
各性別の数	132	143	275	1334	1246	2580
各性別の比率	48.0%	52.0%	100.0%	51.7%	48.3%	100.0%
携帯電話の保有者数	47	74	121	695	832	1527
保有者の男女比率	38.8%	61.2%	100.0%	45.5%	54.5%	100.0%
各性別毎の保有者率	35.6%	51.7%	44.0%	52.1%	66.8%	59.2%

性別及び携帯電話保有について回答頂いた児童生徒が対象

また、男女別に出現数をカウントすることで男女毎の携帯電話の利用傾向の違いについて抽出した。

小学校においては、順序が1と2番目、3と4番目で順序が逆になったが、男女ともに傾向の高いキーワードは「メール」「電話」「家族」「友達」となった。

一方、中学校についても、傾向の高いキーワードは「メール」「電話」「連絡」「友達」となり、4番目まで男女で同様の順番になり、5番目で男女の違いが見られた。

男子は中学生になると「電話」よりも「メール」のほうが出現数が多くなり、女子は更に「メール」の出現数が多く、相対比率も高い。

中学校の女子の5、6番目には「インターネット」「サイト」のキーワードが並び、男子に比べて、ネットの利用の傾向が高いと予測される。

5.4 携帯電話利用時の約束について

携帯電話を使う時の約束があるかについて、児童・生徒と保護者について質問した。インターネットの利用における約束の有無と同様に、小学校、中学校共に8割以上の保護者が、「約束を決めている」と回答しているにもかかわらず、「約束を決めている」と回答した小学校児童と中学校生徒はそれぞれ7割弱、5割強程度であった。ただし、昨年度データで「約束を決めている」と回答した児童・生徒は35.0%、保護者は58.1%であり、共に「約束を決めている」の回答が増えている。「子どもの携帯電話利用」に対する指導が、徐々に浸透している結果と思われる。

表12 男女の携帯電話利用傾向（小学校）

#1	男子			女子			
	出現数	キーワード	順位	順位	キーワード	出現数	#1
1.00	27	電話	1	1	メール	47	1.00
0.78	21	メール	2	2	電話	42	0.89
0.26	7	家族	3	3	友達	14	0.30
0.15	4	友達	4	4	家族	12	0.26
0.15	4	ゲーム	4	5	連絡	10	0.21
0.11	3	連絡	6	6	帰り	7	0.15
0.11	3	カメラ	6	7	習い	6	0.13
0.07	2	GPS	8	8	カメラ	4	0.09
0.07	2	時間	8	8	写真	4	0.09
0.07	2	習い	8	8	普通	4	0.09

#1 1位項目の出現数を1.00とした場合の各項目出現数の相対比率

男女の携帯電話利用傾向（中学校）

#1	男子			女子			
	出現数	キーワード	順位	順位	キーワード	出現数	#1
1.00	425	メール	1	1	メール	622	1.00
0.84	355	電話	2	2	電話	461	0.74
0.34	146	連絡	3	3	連絡	148	0.24
0.14	58	友達	4	4	友達	135	0.22
0.11	48	ゲーム	5	5	インターネット	54	0.09
0.10	42	インターネット	6	6	サイト	49	0.08
0.07	29	家族	7	6	家族	49	0.08
0.07	28	ネット	8	8	カメラ	37	0.06
0.06	25	音楽	9	9	ゲーム	35	0.06
0.04	15	カメラ	10	10	ネット	24	0.04
0.04	15	サイト	10	10	音楽	24	0.04
0.02	8	アラーム	12	12	習い	19	0.03
0.02	8	写真	12	13	iモード	18	0.03
0.02	7	ワンセグ	14	13	画像	18	0.03
0.02	7	ゲームサイト	14	15	ブログ	13	0.02
0.01	6	アプリ	16	15	帰り	13	0.02
0.01	6	ブログ	16	17	アラーム	11	0.02
0.01	6	時計	16	18	写真	10	0.02
0.01	6	目覚	16	19	ワンセグ	9	0.01
0.01	5	iモード	20	20	お母さん	8	0.01
0.01	5	画像	20	21	クラブ	7	0.01
0.01	5	帰り	20	21	帰る	7	0.01
0.01	5	待ち合わせ	20	23	ニュース	6	0.01
0.01	5	調べ	20	23	行く	6	0.01
0.01	4	迎え	25	25	学校	5	0.01
0.01	4	時間	25	25	掲示板	5	0.01
0.01	4	接続	25	25	電卓	5	0.01
0.01	3	サッカー	28	25	遊ぶ	5	0.01
0.01	3	メモ	28	29	ダウンロード	4	0.01
0.01	3	学校	28	29	デコメ	4	0.01
0.01	3	機能	28	29	フィルタリング	4	0.01
0.01	3	帰る	28	29	プロフ	4	0.01
0.01	3	検索	28	29	迎え	4	0.01
0.01	3	時刻	28	29	時計	4	0.01
0.01	3	先輩	28	29	取り合い	4	0.01
0.01	3	電車	28	29	宿題	4	0.01
0.01	3	動画	28	29	調べ	4	0.01

#1 1位項目の出現数を1.00とした場合の各項目出現数の相対比率

表 1 3 あなたは、携帯電話の使い方について家族で約束を決めていますか（児童・生徒）

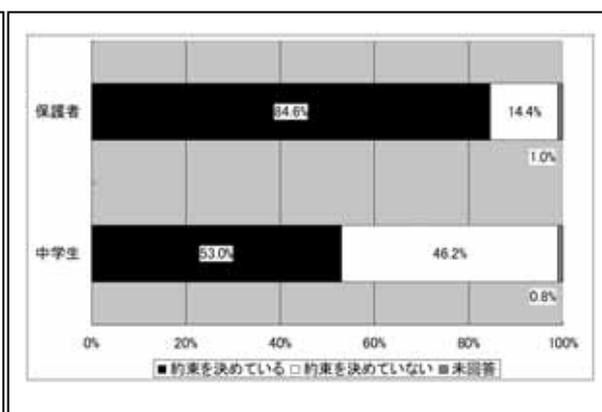
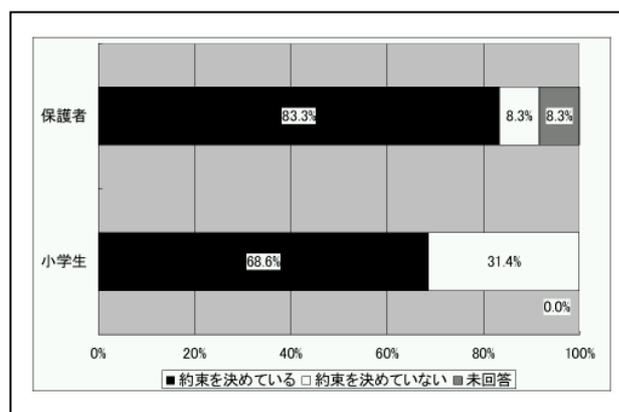
	小学校		中学校		小中学校	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
約束を決めている	83人	68.6%	815人	53.0%	898人	54.1%
約束を決めていない	38人	31.4%	710人	46.2%	748人	45.1%
未回答	0人	0.0%	13人	0.8%	13人	0.8%
合計	121人	100.0%	1538人	100.0%	1659人	100.0%

携帯電話を持っている児童・生徒が対象 児生Q8

表 1 4 携帯電話を持たせている方は、使い方について家族で約束を決めていますか（保護者）

	小学校		中学校		小中学校	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
約束を決めている	20人	83.3%	88人	84.6%	108人	84.4%
約束を決めていない	2人	8.3%	15人	14.4%	17人	13.3%
未回答	2人	8.3%	1人	1.0%	3人	2.3%
合計	24人	100.0%	104人	100.0%	128人	100.0%

携帯電話を持たせている保護者が対象 保Q10



グラフ 7 携帯電話の使い方、約束していますか（小学校）

グラフ 8 携帯電話の使い方、約束していますか（中学校）

同様に携帯電話を使うときの約束について、家庭内で話し合っているかの質問し、以下のような回答が得られた。

約束について「よく話している」もしくは「たまに話す」と回答した保護者は小学校、中学校共に9割強となっているにもかかわらず、小学校児童と中学校生徒の回答はそれぞれ8割、7割程度となっている。ただし、インターネット利用に関する同様の質問ほどには、認識の違いは見られず、昨年度データと比較すると小学校児童と中学校生徒の「話したことはない」という回答が共に10%程度減っている。この点も先のデータと同様、「子どもの携帯電話利用」に対する指導が徐々に浸透している結果と思われる。

表15 あなたは、家族で携帯電話の使い方の約束について話し合っていますか（児童・生徒）

	小学校		中学校		小中学校	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
よく話している	14人	11.6%	141人	9.2%	155人	9.3%
たまに話す	83人	68.6%	951人	61.8%	1034人	62.3%
話したことはない	23人	19.0%	416人	27.0%	439人	26.5%
未回答	1人	0.8%	30人	2.0%	31人	1.9%
合計	121人	100.0%	1538人	100.0%	1659人	100.0%

携帯電話をを持っている児童・生徒が対象

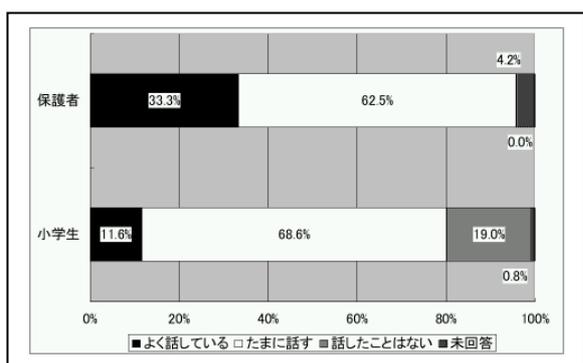
児生Q9

表16 携帯電話を使うときの約束についてお子さんと話し合っていますか（保護者）

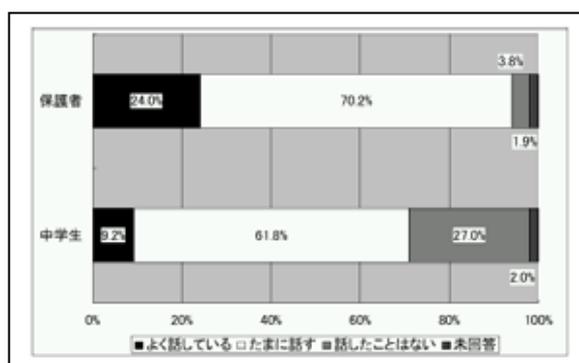
	小学校		中学校		小中学校	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
よく話している	8人	33.3%	25人	24.0%	33人	25.8%
たまに話す	15人	62.5%	73人	70.2%	88人	68.8%
話したことはない	0人	0.0%	4人	3.8%	4人	3.1%
未回答	1人	4.2%	2人	1.9%	3人	2.3%
合計	24人	100.0%	104人	100.0%	128人	100.0%

携帯電話を持たせている保護者が対象

保Q11



グラフ9 携帯電話の使い方を話しますか（小学校）



グラフ10 携帯電話の使い方を話しますか（中学校）

5.5 ネット・メディア使用傾向

小学校児童、中学校生徒に対して、知っている言葉を質問し、用語の認知度、利用の傾向を確認した。

小学校及び中学校の男女間で、知っていると回答した比率に20%以上の差がある項目について着目し、各校種の女子の回答率の値を太字にした。中学校では男女間で、認知度に20%以上の差が発生した項目はひとつもなかったが、小学校では「プロフ」と「学校裏サイト」について回答に差分が見られた。小学校では、女子の方が早い段階でインターネット等に関心を持っていることが予想される。

また、同様に小学校児童と中学校生徒の間で、知っていると回答した比率に20%以上の差がある項目について、中学校の回答率の値を太字にした。中学校の段階になると、男子においてもインターネットを利用したり、携帯電話を保有したりする生徒が増えることで、「プロフ」「掲示板サイト」「学校裏サイト」などの言葉を友達同士で会話することによって、新たに認知していくものと思われる。

表17 あなたの知っていた言葉は？（児童・生徒）

校種	員数	ブログ	プロフ	チャット	掲示板 サイト	学校裏 サイト	フィルタ リング	2ちゃん ねる	出会い系 サイト	ネット ゲーム	www	URL	プロ トコル	Twitter	
小学校	男子	112人	34人	74人	62人	34人	34人	28人	59人	102人	32人	12人	3人	13人	
		132人	84.8%	25.8%	56.1%	47.0%	25.8%	25.8%	21.2%	44.7%	77.3%	24.2%	9.1%	2.3%	9.8%
	女子	130人	73人	79人	77人	71人	36人	45人	89人	109人	37人	23人	6人	21人	
		143人	90.9%	51.0%	55.2%	53.8%	49.7%	25.2%	31.5%	62.2%	76.2%	25.9%	16.1%	4.2%	14.7%
	未記入	1人	1人	1人	1人	1人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	1人	
		3人	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
	計	243人	108人	154人	140人	106人	70人	73人	149人	212人	69人	35人	9人	35人	
中学校	男子	1243人	851人	978人	1021人	848人	827人	669人	1000人	1085人	548人	610人	129人	571人	
		1334人	93.2%	63.8%	73.3%	76.5%	63.6%	62.0%	50.1%	75.0%	81.3%	41.1%	45.7%	9.7%	42.8%
	女子	1207人	1004人	940人	1038人	982人	612人	566人	1081人	971人	479人	615人	74人	572人	
		1246人	96.9%	80.6%	75.4%	83.3%	78.8%	49.1%	45.4%	86.8%	77.9%	38.4%	49.4%	5.9%	45.9%
	未記入	18人	16人	17人	17人	13人	9人	11人	15人	18人	5人	8人	2人	7人	
		22人	81.8%	72.7%	77.3%	77.3%	59.1%	40.9%	50.0%	68.2%	81.8%	22.7%	36.4%	9.1%	31.8%
	計	2468人	1871人	1935人	2076人	1843人	1448人	1246人	2096人	2074人	1032人	1233人	205人	1150人	
小中学校	合計	2711人	1979人	2089人	2216人	1949人	1518人	1319人	2245人	2286人	1101人	1268人	214人	1185人	
		2880人	94.1%	68.7%	72.5%	76.9%	67.7%	52.7%	45.8%	78.0%	79.4%	38.2%	44.0%	7.4%	41.1%

アンケートに回答頂いた児童生徒全員が対象

児生Q2

5.6 セミナーについて

最後にセミナーについて質問した。「とても楽しかった」「まあまあ楽しかった」を合わせると小学校児童、中学校生徒共に8割強の回答が得られた。これら回答結果については、イラストを使って、楽しく学べるテキスト(冊子)の開発と共に、講師の方々が、これまで3年間の事業実績を踏まえて、セミナーの改善を実践して頂いた結果と判断する。

表18 今回のセミナーは楽しかったですか(児童・生徒)

	小学校		中学校		小中学校	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
とても楽しかった	106人	38.1%	609人	23.4%	715人	24.8%
まあまあ楽しかった	137人	49.3%	1536人	59.0%	1673人	58.1%
つまらなかった	27人	9.7%	423人	16.3%	450人	15.6%
未回答	8人	2.9%	34人	1.3%	42人	1.5%
合計	278人	100.0%	2602人	100.0%	2880人	100.0%

アンケートに回答頂いた児童生徒全員が対象

児生Q12

表19 今回のセミナーは、携帯電話やインターネットの安全な使い方に役立つと思いましたか(児童・生徒)

	小学校		中学校		小中学校	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
思った	231人	83.1%	2098人	80.6%	2329人	80.9%
思わない	9人	3.2%	93人	3.6%	102人	3.5%
よくわからない	31人	11.2%	383人	14.7%	414人	14.4%
未回答	7人	2.5%	28人	1.1%	35人	1.2%
合計	278人	100.0%	2602人	100.0%	2880人	100.0%

アンケートに回答頂いた児童生徒全員が対象

児生Q13

表20 テキスト(冊子)「親子のためのネット社会の歩き方」はわかりやすかったですか

	小学校		中学校		小中学校	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
調度よい	210人	75.5%	2037人	78.3%	2247人	78.0%
難しい	16人	5.8%	59人	2.3%	75人	2.6%
簡単すぎる	15人	5.4%	268人	10.3%	283人	9.8%
よくわからない	30人	10.8%	206人	7.9%	236人	8.2%
未回答	7人	2.5%	32人	1.2%	39人	1.4%
合計	278人	100.0%	2602人	100.0%	2880人	100.0%

アンケートに回答頂いた児童生徒全員が対象

児生Q16

6 . セミナーを終えて 感想と今後の課題

セミナーを終えて、各委員から得られた感想と今後の課題を次頁以降に示す。

井上 勝 委員

佐久間 茂和 委員

三宅 健次 委員

1. 松戸市立六実小学校

(1) 実施までの経緯

平成 20 年度にも P T A 主催で本セミナーを実施した学校である。そのときは土曜日開催で希望者対象であった。保護者の反省のなかで「ケータイやネットに関することは全員の子どもたちに学ばせ、正しい知識、活用方法を身につけさせたい」といった声があり、今回 6 年生全員を対象とし、平日の授業時間内で実施したいと応募され、今回も P T A 主催で実施した。



前回は私が担当させていただき、また六実小学校区から私の勤務校に通っている生徒もいるので、私にとっては「地元の学校」というイメージであった。

(2) セミナー

6 年生の児童 93 名、保護者 30 名を対象として体育館で行った。事前の調査により携帯電話の所持率はあまり高くないようだったので、メールに関する話を中心に児童・生徒用のテキスト、プレゼンテーションソフト、事例紹介 DVD を活用して次のような流れで進行した。

発問

- ・インターネットでどんなことが出来ますか？
- ・携帯電話で電話以外にどんなことをしますか？（どんなことをしたいですか？）

等

気づき

携帯電話 = 電話の機能もついたコンピュータ = インターネットへの入り口

テキスト 2 ~ 5 ページ

光と影について解説。

発問

- ・メールの良いところ？
- ・メールの困ったところ？

事例紹介 DVD の視聴

まとめ (テキスト 19 ページ)

ネット社会を上手に歩いていくためにはネット上のコミュニケーションと face to face のコミュニケーションのバランスが大切である。

テキスト 10・13・18 ページ

メール依存、チェーンメール、迷惑メール等ケータイを使い始めて間もない頃に起こりやすい問題を解説。

2. 豊中市教育センター

(1) 実施形態

学校ではなく教育センターが主催し、参加者を一般から募るといった形で行われた。豊中市の広報誌への掲載、市内の児童生徒(小学5年～中学3年)全員に対して案内の用紙配布(約27500枚)、駅や公共施設などにポスター掲示するなどして募集されたとのこと。平成20年度から行われている本セミナーのなかで初めての実施形態であった。

(2) 子ども向けセミナー

小学3年生から中学2年生まで合計12名の参加。PC室でのセミナーであったのでワークショップも行いながら実施した。プロフやSNSなど実サイトを閲覧させながらすすめたのはインパクトがあったようである。

(3) 保護者向けセミナー

保護者の方(ほぼ母親)が大半であったが、教育委員会等関係者の方々も参加された。時間が90分あったので、テキストの内容のほか、インターネットのしくみの話もすることができた。

- ・ネットワークのしくみ
- ・ネット社会の特性
- ・メール、プロフ、SNS等についての問題点、事例の紹介
- ・ネットいじめ等の事例の紹介
- ・「子どもの携帯電話等の利用に関する調査」の結果考察

子どもと情報機器の関係を考えるセミナー

第1部 13:00～13:40

① 今どきの授業とは? ICTを活用した授業を褒めてみませんか?
対象: 市民 約6名
内容: 2010・2011年度のICTを用いた授業実践を報告します

② 子どものためのネット社会の歩き方セミナー
対象: 小・中学校1年～中学校3年までの児童・生徒 約4名
内容: パソコンを用いた学習とあわせて、インターネットや携帯電話の危険な事例等について

第2部 13:50～15:20

③ 保護者のためのネット社会の歩き方セミナー
対象: 市民 約40名
内容: 子どものインターネット利用やインターネットの活用と関係性、危険な事例、実際に起こるトラブルへの対応性や問題点を学ぶための実演

日時 平成22年(2010年)6月26日(土)13:00～15:20

会場 豊中市教育センター
(豊中市宝塚1丁目1番地、教育館6階601～604号室)

申込 申込書、豊中市教育センターホームページ、または電話にてお申し込みください
※申込書は申込書ダウンロードページからダウンロードしてください
※申込書は申込書ダウンロードページからダウンロードしてください
※申込書は申込書ダウンロードページからダウンロードしてください

連絡先 豊中市教育センター
〒595-8502 豊中市宝塚1丁目1番地
TEL:06-6535-4100 FAX:06-6535-4107
ホームページ: <http://www.city.toyonaka.jp/>

3. 龍ヶ崎市立城西中学校

全校生徒450名、保護者約50名を対象として体育館で行った。大人数であったが、生徒の皆さんがきちんとした態度で最後まで聴いてくれたことには感動した。

このセミナーでは、今年度開発した「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」生徒用指導教材を使って行った。

生徒用

親子のための
ネット社会の歩き方

4. セミナーを終えての感想・今後の課題

豊中でのセミナーは、教育センターが主催し、参加者を公募したが、担当の方が予想していたより少なく、参加者は以前にも情報モラル関係のセミナーなどに参加された方が多かったとのこと。子どもたちのインターネット利用に関して関心のある方と全く危機感のない方というように両極端に二分化されているように思われる。これは私の勤務校においても毎年、保護者対象の情報モラルセミナーを行っているが、参加者が意外に少ないことから感じていることであった。保護者の方に、いかに関心を持っていただくか、トラブルが起こる前に自分の子どもの問題として捉えていただくか、われわれ教育関係者にとっては喫緊の大きな課題であると受け止めている。

1. 今年度の活動

C E Cの委員として3年目になった。今年度は、テキストの開発・修正は行わず、プレゼンテーション資料の提供とウェブコンテンツの改訂を行うことになった。委員を2つのグループに分けて、同時進行で開発することになり、私は指導用教材のプレゼンテーション(以下プレゼンと略)作成のワークグループを担当することになった。



指導者教材のプレゼンは、各委員のプレゼンを元にして作成していくことになったので、自分自身のプレゼンも他の委員のものを参考にし、昨年度のセミナーを修正して、3回のセミナーを実施した。

2. プレゼンテーション資料の作成と修正

各委員のプレゼンを元にするとはいえ、整理の根拠はやはりテキストなので、テキストを使いながらセミナーができるよう意識して、修正を行った。誰でも使えるプレゼンにすることになっているので、子供の実態や情報モラルの現状を踏まえた内容になるように心がけた。

昨年度の内容から修正したのは次の点である。

ワークショップ形式にして、短い時間でも話し合いができるようにする

個別の資料を減らし、テキストを使うようにする

絵やカットにはテキストのものを使う

3. 京都府八幡市立中央小学校の子どもたちとのセミナー

(1) 全国どこでも関心は高い

京都郊外の学校でのセミナーが今年の最初のセミナーだった。昨年の熊本や東京の学校と同じように、携帯電話やインターネットの普及率や関心は、似たところがあった。京都の子どもたちも、東京の子どもたちや熊本の子供たちと変わらない関心を示した。

今年は、テキストに入る前に、光と影の話をして導入とした。これは、我々のスタンスを明確にするために話している。往々にしてケータイやネットの影の部分が強調され、排除優先の気運が強い昨今に危惧を感じているからである。子どもたちが長じた時、ケータイやネット社会は必要不可欠なものになっているのは間違いなく、子どもたちが大人になった時の社会は、ケータイやネット社会がないと生きていけない時代なのである。だから、子どもたちには、もっと明るく、正しく、便利に使って欲しい、というスタンスを明確にしてセミナーをスタートしたのである。

(2) 3つのポイント

テキストをどのように使うかを考えて、わかりやすいポイントは昨年と同じにした。テキストの内容をK J法で分類して、最終的に3つのグループに分けたものを使った。

顔は見えない(匿名性・非対面性の危険)

使い方を知らず(知らないことで巻き込まれる危険)

だめなものだめ(実社会でだめなものはネット社会でもだめ)

(3) 立派だった子どもたち

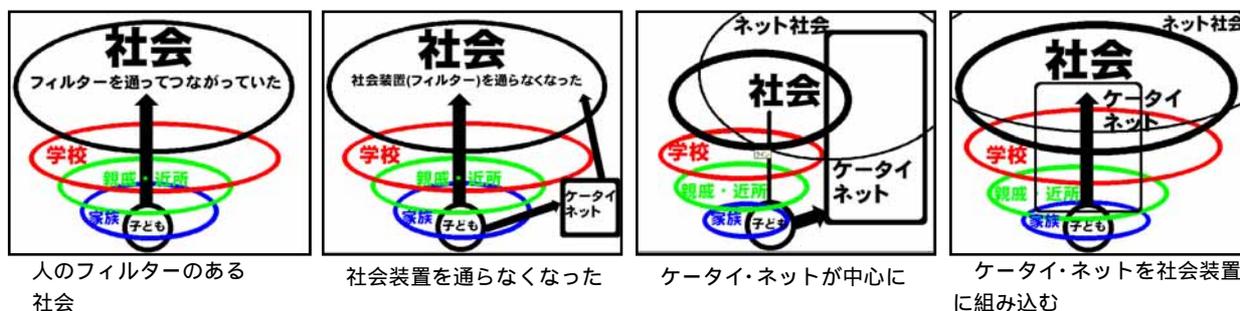
子どもたちのセミナーはランチルームで行った。授業参観も兼ねていたので、十数人の保護者が

参観していた。児童の態度が心配な学年です、と校長が心配されていたが、あにはからんや、皆熱心に話し合ったり、発表したりしてくれた6年生だった。講師としては、とてもうれしい参加態度であった。ミニワークショップのような形で、話し合いと発表を3回入れながら進めた。発表も適宜してくれたし、発表内容もしっかりしていた。セミナー講師としてはとてもやりやすかった。よく勉強してくれた子どもたちに心より感謝すると共に、子どもたちの心を引きつけた素晴らしい仕様のテキストに感謝したい。

2. 愛知県東郷町立東郷小学校の保護者とのセミナー

紙面の関係で、子供向けのセミナーの事は述べないが、体育館でのセミナーには、テキストのおかげもあって、子供たちが熱心に参加してくれた事だけは触れておきたい。

保護者向けのセミナーは、ワークショップ型を考えていたが、学校の事情で予定人数よりも少なくなり、時間も短くなったので、私の話を中心にした。昨年度も保護者向けの中心とした「ネット社会の図」を提示して、これをメインに説明をした。最後に、人のネットワークの中に、ケータイやネット社会を取り戻そうというアピールをしたが、共感を得たと感じている。



人数は少なかったが、保護者の関心は高く、熱心に聞いてくれた。事後の感想にも、関心の高さが感じられた。子どもと同じで、全国どこでも、関心は高く、かつ問題が起きていると感じた。

3. 東京都台東区立千束小学校でのセミナー

予定期間外でセミナーが開催できることになり、東京でセミナーを開催することになった。千束小学校の土曜学校公開時に、5・6年生対象として子ども向けのセミナーを行い、その後、保護者向けのセミナーを行った。

特に、匿名性や非対面性に注目して話し合いをした。「透明人間症候群」として、ケータイやネット社会は姿形が見えない透明人間のようなものであり、人間が見えなくなると仮定すると何をしたいと問うと、出てくるのは悪いことばかりであり、良いことなど一つも出てこない、という点を重点に進めた。人間の本質的な部分と関わりがあるという考え方である。この時の印象で「透明人間症候群」という用語は子供向けではないと考え、「透明人間病」と変えて指導者用資料に組み込むことになった。素晴らしいテキストにはここでも助けられた。

4. 感想と課題

一昨年度の反省を生かした45分バージョンは、内容を少し減らした分、以前より焦点を絞りがよくなったと感じた。それでも、テキストが内容豊富なので、扱う時間や内容を精選して、わかりやすくすることが大切であると感じた。今年のプロジェクである指導者用教材のプレゼンテーションには、3年間のセミナーの経験を生かしてあるので、これを活用してよりよい指導が全国で実施されることを望んでいる。

1. 具体的なセミナー事例

私が担当した練馬区立谷原中学校を会場としたセミナーは、他の会場のセミナーと異なり、「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」の指導者用教材ワーキンググループが作成したプレゼンテーション資料をもとに行ったものである。

この資料をもとに、多少オリジナルの部分を加え、子ども向け、保護者向けにセミナーを行った。具体的な主な内容は以下の通りである。

(1) 子ども向けの内容

セミナーのタイトルを「ネット社会で被害者・加害者にならないために」とし、導入にチェーンメールの問題を取り上げ、ネット社会では簡単に被害者にも加害者にもなりうることを確認した。

次に被害事例として、ネットワーク特性から生ずる「ネット上の出会いの危険性」、「個人情報の書き込み」、「無料の落とし穴」を取り上げた。

また、加害事例として「ネットいじめ」、「無責任な情報発信」の問題を取り上げ、その問題性を考えさせた。

最後に、「ネット社会を上手に歩いていくために」として、顔の見える相手、見えない相手、バランス良くどちらの人間関係も大切であるとまとめた。

(2) 保護者向けの内容

保護者に対しては、まず、子ども達を取り巻く携帯電話利用の実態を中心に、「ケータイ依存」、「プロフの問題」、「ネットいじめ」、「ネット上の出会いの危険性」を、データをもとに紹介した。

次に学校教育における情報モラル教育の内容、ネットワークの特性を取り上げ、最後に保護者として対応すべき内容として、「フィルタリング」、「利用ルールの確立」、「コミュニケーションの大切さ」を紹介した。

2. セミナーの感想

このセミナーは、指導者用教材ワーキンググループが作成したプレゼンテーション資料をもとに行った他、セミナー事例として紹介するためにセミナーの様子を撮影した。撮影という制限及びセミナーの実施時期の関係から、参加した生徒15名、保護者9名と参加者は少なかった。

参加者は少なかったものの、生徒及び保護者ともに熱心に参加していた。



図1 子ども用スライドの表紙



図2 保護者用のスライドの表紙

携帯電話に関する内容を中心にしたが、対象が中学1年生だったため、予想外に生徒の携帯所有率が低く、所有していない生徒の方が多かった。所有していない生徒にとってはややわかりにくい内容になってしまったのではないかと感じた。

また、撮影上致し方ない部分もあるが、セミナー全体を通して動きが少なく、単調となってしまったことが反省材料としてあげられる。

3. 今後の課題

携帯電話の問題について扱うのはどのタイミングが効果的なのか。携帯電話に関心を持ち、実際に持ち始める時期が最も効果的に思えるが、携帯電話を児童生徒に与えるのは保護者であるため、同じスタートラインで実施することは不可能である。また、被害者・加害者にならないようにするためには、持ち始める前に実施する方が良いと思うが、実際にセミナーを実施してみると、既に所有している児童生徒の方が内容を理解しやすく、熱心に聞いているように感じる。問題を起こしてからの後追いの指導よりも、問題を起こさないようにするための事前の指導が大切と考えるならば、携帯電話を持っていない児童生徒が興味・関心をもって参加できるよう、指導法を工夫していくことが今後の課題としてあげられる。

7. まとめ

7.1 本年度の成果

(1) セミナー開催地の充実

セミナー開催地は、平成20年度の6カ所、平成21年度の14カ所から、本年度は、小学校4校、中学校10校、教育委員会1カ所の計15カ所とさらに開催地を充実させることができた。開催地はネットいじめその他の問題への対応の必要性を強く感じており、セミナー実施後のアンケート調査でも74.1%の保護者がよいセミナーであったと答えその成果を評価していた。また、保護者は、セミナー受講後これからすべきこととして、「日常的に携帯電話等の使い方について話し合い、ルールを決めること」「保護者がもっと携帯電話やインターネットに関する知識を持つようにすること」「子どもとのコミュニケーションをより密にすること」「子どもの成長に伴ってルールを変更していくこと」などを挙げ、保護者による情報モラル教育の必要性を理解してもらうことができた。



(2) 自立展開を支援する指導者用教材の開発

本年度は、過去3年間のセミナー実施の成果を基に、全国の先生方が講師となって「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」を自立展開できるようにするため、読み上げ原稿付きプレゼンテーション教材を、小学校児童用、小学校保護者用、中学校生徒用、中学校保護者用の計4教材を開発した。

作成に当たっては、親委員会の下に佐久間委員を座長とする「指導者用教材ワーキンググループ」を設置し、精力的に検討作業を進めていただいた。その中で、過去3年間のセミナーで各講師が使用したプレゼンテーション教材を分析して共通点を洗い出し、それをテキストと並ぶ内容構成の柱として、指導者用教材を作成していただいた。また、これまでのセミナーの標準的な時間配分、内容構成を分析・検討し、それに基づいてプレゼンテーション教材を作成することで、より汎用性を高めることもできた。

今回特筆すべきことは、従来は情報モラル教育に関して高度な専門知識をもった先生しか講師を務めることができなかった状況を、プレゼンテーション教材に読み上げ原稿を付けることで、誰でも直ちにセミナー講師を務めることができるように改善したことである。これにより、全国いずれの学校においても「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」を自立展開できるようになったことである。

さらに、本指導者用教材を実際に使う際、講師が読み上げ原稿を見つつ、受講者にはそれが見えないようにする2画面機能を活用した「発表者ツール」の活用方法解説と、画面上で『親子のためのネット社会の歩き方』テキストの一部を拡大表示したり、画面に書き込みを行ったりできるフリーソフト「Zoom It」の活用方法解説の資料も併せて作成し、ICTに詳しくない先生も容易に実施できるようにもした。

(3) Web教材「ネット社会の歩き方」の全面改訂

本事業で作成した『親子のためのネット社会の歩き方』テキスト（児童生徒用と保護者用）は、ページ数に限りがあることから、その中で紹介している事例数を絞り、転載可能なようにしてある。しかし、情報モラル教育に関して高度な専門知識を有しない先生や保護者が、具体的な事例について指導する際には、CECのWeb教材「ネット社会の歩き方」のように数多くの具体的な事例を紹介し、その後に解説もついている教材があることが望ましい。

そこで、本年度は、学校現場から強く要望のあった「アニメーションに音声を付けること」と、「最新の状況に対応すべく内容を加除修正すること」、「新学習指導要領ですべての教員がすべての教科等で情報モラル教育の実施が義務づけられたことへの対応」の3点を柱に、全面改訂を実施した。

具体的な検討は、高橋委員を座長とする「Web教材ワーキンググループ」を設置し、その中で現在公開している「ネット社会の歩き方」の見直し、最新の状況に対応するため新たに必要な教材の検討、教科・道徳等での活用を前提とした教材の検討、児童生徒・教員・保護者が使いやすいインターフェイスの検討などを行っていただいた。

アニメーションに音声を付けるに当たっては、単に従来のアニメーションに音声を付けるのではなく、より内容が伝わりやすいようにアニメーションを再構成すると共に、現在の標準的なディスプレイの縦横比に合わせ、大画面表示も可能なように解像度も上げるため、すべてのアニメーションを描き直した。

また、旧版からの改訂教材40本に加え、モデル募集サイトなどを装った個人情報収集サイトや、出会い系サイトの代わりに活用されているゲームのコミュニティサイトなどにも対応できるよう10本のアニメーションを新作し、合計50本のWeb教材を提供できるようにした。

また、トップページを始め、教材を検索・一覧するためのインターフェイスも、児童生徒・教員・保護者それぞれが使いやすく配慮すると共に、文部科学省とも連携し、教科等との対応関係を明示した最新の「情報モラル指導モデルカリキュラム」表改訂版からの入り口も設置した。

この全面改訂により、最新の状況に対応した情報モラル教育を先生方や保護者が実施すると共に、児童生徒が自主的に学び、自らの在り方を考えることができるようになった。

7.2 次年度へ向けての課題

(1) 指導者研修の実施による「面」展開

平成22年度は開催地を15カ所に増やすことができたが、全国レベルで言うと、まだまだ「点」の状況である。また、各委員の報告にもあるように、保護者の間でも情報モラル教育の必要性を痛感している方々と、全く興味関心を示さない方々との2極分化が進んでおり、全国展開を進め、より多くの先生方、保護者に情報モラル教育を推進していただく「面」展開が喫緊の課題である。次年度は、従来の学校単位での開催ではなく、研修権を有する都道府県・政令指定都市・中核市の教育委員会が主催する「指導者養成研修」に講師を派遣し、指導者用教材を活用して自ら講師を務めることや、さらに他の教員に対して「指導者養成研修」を実施できるようにし、「面」展開させていくことが必要である。

これについては、平成23年3月末時点で15地区の募集に対し18地区から応募があるなど、現場のニーズも高く、その成果が期待される場所である。

次年度は、これまでの「開発フェイズ」から「普及フェイズ」に移行する。「指導者養成研修」

の成果と課題を踏まえ、どのような普及方策が有効であるかを検討していくことが必要である。

(2) Web 教材「ネット社会の歩き方」のマルチプラットフォーム対応とポータル化

旧版・新版共に Web 教材「ネット社会の歩き方」は flash 教材である。しかし、学校現場では flash を使用できないスレート端末を利用しているところもあり、マルチプラットフォーム対応させることが課題である。

また、事業仕分けによりこれまで教育情報のポータルサイト「教育情報ナショナルセンター」が廃止されることから、現在日本で最も多く活用されている「ネット社会の歩き方」を情報モラル教育のポータルサイト化することも検討したい。

<付 録>

1. 調査票

事前調査表 イメージ

平成 年 月 日																					
財団法人 コンピュータ教育開発センター 親子セミナー委員会 御中																					
報告者所属 役職 氏名																					
平成22年度「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」事前調査票																					
※ 把握している範囲でお答えください。																					
開催校																					
開催日時	平成22年 月 日 () 時 分 ~																				
・本セミナー申込みのきっかけとなった 動機、(あれば)出来事をご記入 ください。																					
・今回セミナーを受講される児童・生徒 の家庭でのインターネット利用率は おおよそどれくらいでしょうか。	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">25</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">75</td> <td style="text-align: center;">100</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">[</td> <td style="text-align: center;"> </td> <td style="text-align: center;"> </td> <td style="text-align: center;"> </td> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">]</td> </tr> </table> <p>・大体の位置に○をご記入ください。</p>	0	25	50	75	100	-----					[]				
0	25	50	75	100																	

[
]																					
・今回セミナーを受講される児童・生徒 の携帯電話の保有率はおおよそど れくらいでしょうか。	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">25</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">75</td> <td style="text-align: center;">100</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">[</td> <td style="text-align: center;"> </td> <td style="text-align: center;"> </td> <td style="text-align: center;"> </td> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">]</td> </tr> </table> <p>・大体の位置に○をご記入ください。</p>	0	25	50	75	100	-----					[]				
0	25	50	75	100																	

[
]																					
・携帯電話保有者のフィルタリング 設定率はおおよそどれくらいでしょ うか。	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">25</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">75</td> <td style="text-align: center;">100</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;"> ----- </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">[</td> <td style="text-align: center;"> </td> <td style="text-align: center;"> </td> <td style="text-align: center;"> </td> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">]</td> </tr> </table> <p>・大体の位置に○をご記入ください。</p>	0	25	50	75	100	-----					[]				
0	25	50	75	100																	

[
]																					
・保護者から相談を受けた事例があり ましたら、ご記入ください。																					
送付先：財団法人コンピュータ教育開発センター TEL03-5423-5911 FAX03-5423-5916 e-mail: h22oyako@cec.or.jp																					

2. アンケート質問票

(1)【児童・生徒向け】 アンケートイメージ

アンケートにご協力ください。【 児童・生徒向け 】

□にレ をつけてください。()内は自由に書いてください。

1. あなたの学年、性別は？
 小学校:()年生 中学校:()年生 □ 男子 □ 女子

2. あなたの知っていた言葉は？ (少し知っていることでもかまいません)
 ブログ プロフ チャット 掲示板サイト 学校裏サイト フィルタリング 2ちゃんねる
 出会い系サイト ネットゲーム www URL プロトコル Twitter(ツイッター)

3. あなたの家庭では、コンピュータやインターネットを使うことができますか。
 使うことができる 使うことができない

4. 家庭でコンピュータやインターネットを使うときの約束を決めていますか。
 決めている () 決めていない
 どのようなことですか

5. あなたは、家族でコンピュータやインターネットを使うときの約束について話し合っていますか。
 よく話している たまに話す 話したことはない

6. あなたは携帯電話を持っていますか。
 持っている[小学校()年生から、中学校()年生から] 持っていない

7. [6. で持っていると答えた方のみお答えください。]持っている人は、主にどう使い方をしていますか？
 ()

8. [6. で持っていると答えた方のみお答えください。]あなたは、携帯電話の使い方について家族で約束を決めていますか。
 決めている () 決めていない
 どのようなことですか

9. [6. で持っていると答えた方のみお答えください。]あなたは、家族で携帯電話の使い方の約束について話し合っていますか。
 よく話している たまに話す 話したことはない

10. [6. で持っていると答えた方のみお答えください。]あなたは携帯電話やインターネットを使っていて、いやな思いをしたことがありますか。
 ある ない わからない
 いやな思いをしたことがある場合、
 どのようなことですか。 ()

11. [6. で持っていると答えた方のみお答えください。]あなたの携帯電話にフィルタリングは設定していますか
 はい いいえ 設定していたが外した よくわからない

12. 今回のセミナーは楽しかったですか。
 とても楽しかった まあまあ楽しかった つまらなかった

13. 今回のセミナーは、携帯電話やインターネットの安全な使い方に関心がありましたか。
 思った 思わない よくわからない

14. 困ったときは、親や先生に相談しようと思いましたが。
 思った 思わない よくわからない

15. 今回のセミナーを聞いて、これからやってみようと思ったことは何ですか。
 ()

16. テキスト(冊子)「親子のためのネット社会の歩き方」はわかりやすかったですか。
 ちょうどよい むずかしい かんたんすぎる よくわからない

ありがとうございました。

(2)【保護者向け】 アンケートイメージ

アンケートにご協力ください。【保護者向け】

このアンケートは、セミナーの改良のために参考にさせていただくもので、個人を特定するものではありません。

1. あなたの年齢、性別に、レをつけてください。
 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 男性 女性

2. 今回セミナーに出席されたあなたのお子さんの学年と性別を記入してください。(複数可)
例:(小)学校(6)年生(男)子
①()学校()年生()子 ②()学校()年生()子 ③()学校()年()子

3. あなたの知っていた言葉に、レをつけてください。(複数可)
 ブログ プロフ チャット 掲示板サイト 学校裏サイト フィルタリング 2ちゃんねる
 出会い系サイト ネットゲーム www URL プロトコル Twitter(ツイッター)

4. あなたの家庭では、お子さんがコンピュータやインターネットを使える環境がありますか。
 使うことができる 使うことができない わからない

5. 家庭でコンピュータやインターネットを使うときの約束を決めていますか。
 決めている 決めていない
どのようなことですか { }

6. あなたは、コンピュータやインターネットを使うときの約束についてお子さんと話し合っていますか。
 よく話している たまに話す 話したことはない

7. あなたのお子さんに携帯電話を持たせていますか。
 持たせている [小学校()年生から、中学校()年生から] 持たせていない

8. 携帯電話を持たせている方は、持たせている目的・理由は何ですか。
{ }

9. 携帯電話を持たせている方は、あなたのお子さん一人あたりの使用料はどのくらいですか。
 約()千円 ほとんど使っていない わからない

10. 携帯電話を持たせている方は、使い方について家族で約束を決めていますか。
 決めている 決めていない
どのようなことですか { }

11. 携帯電話を持たせている方は、携帯電話を使うときの約束についてお子さんと話し合っていますか。
 よく話している たまに話す 話したことはない

12. あなたのお子さんは携帯電話やインターネットを使っていて、いやな思いをしたことがありますか。
 ある ない わからない
いやな思いをしたことがある場合、
どんなことですか。 { }

13. 子どもの携帯電話にフィルタリングを設定していますか
 はい いいえ 設定していたが外した よくわからない

14. 今回のセミナーについての印象はいかがですか。
 良い 普通 つまらない
自由記述: { }

15. 今回のセミナーを受講して、これからすべきだと感じたことは何ですか。
{ }

16. テキスト(冊子)「親子のためのネット社会の歩き方」についての印象はいかがですか。
 良い 普通 つまらない
自由記述: { }

ありがとうございました。

(3)【指導者向け】 アンケートイメージ

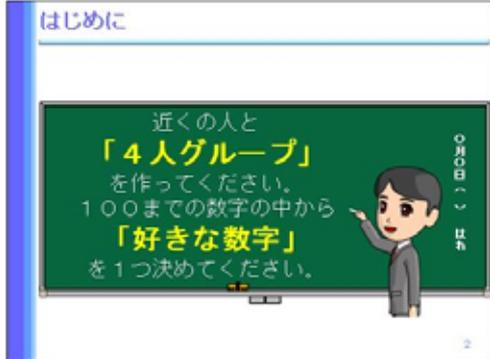
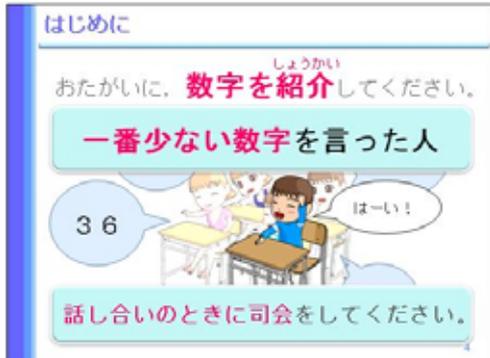
アンケートにご協力ください。【指導者向け】

このアンケートは、セミナーの改良のために参考にさせていただくもので、個人を特定するものではありません。

- あなたの年齢、性別に、レをつけてください。
 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 男性 女性
- 今回セミナーに出席されたあなたの担当学年を記入してください。(複数可)
例:(小)学校(6)年生
①()学校()年生 ②()学校 担当学年なし(担任外・専科・養護教諭等)
③()学校 校長・副校長・教頭
- あなたの知っていた言葉に、レをつけてください。(複数可)
 ブログ プロフ チャット 掲示板サイト 学校裏サイト フィルタリング 2ちゃんねる
 出会い系サイト ネットゲーム www URL プロトコル Twitter(ツイッター)
- あなたの学校では、児童・生徒がコンピュータやインターネットを自由に使うことができますか。
 使うことができる 使うことができない 一定の条件下で使える
- 学校でコンピュータやインターネットを使うときの約束を決めていますか。
 決めている 決めていない
どのようなことですか { }
- あなたは、情報モラル教育をこれまでどの程度行った経験がありますか。
 3回以上実施している 1, 2回実施したことがある 実施したことはない
- あなたの学校では、児童・生徒に携帯電話の持ち込みを認めていますか。
 認めている 認めていない
- 携帯電話の持ち込みを認めている学校は、認めている理由は何ですか。
{ }
- あなたの学校の携帯電話所有率は、最上級学年で、何パーセントくらいだと思いますか。
 約()%
- 携帯電話の持ち込みを認めている学校は、使い方・許可条件について規則を決めていますか。
 決めている 決めていない
どのようなことですか { }
- 携帯電話に関する規則について、児童・生徒との話し合いの場を設けていますか。
 よく設けている たまに設けている 設けたことはない
- あなたの学校では、携帯電話やインターネットによるいじめなどの問題、犯罪被害等がありますか。
 ある ない わからない
ある場合、
どんなことですか。 { }
- 携帯電話のフィルタリング設定等、情報モラルに関して保護者に啓発する行事を行っていますか。
 行っている 行っていない 行う予定 よくわからない
- 今回のセミナーについての印象はいかがですか。
 良い 普通 要改善
- 自由記述: { }
- 今回のセミナーを受講して、これからすべきだと感じたことは何ですか。
{ }
- テキスト(冊子)「親子のためのネット社会の歩き方」についての印象はいかがですか。
 良い 普通 要改善
- 自由記述: { }
- セミナーを受講して、セミナー資料等があればご自身でモラル教育することも可能と思われますか。
 できる 難しい 自由記述: { }

ありがとうございました。

3. 小学校児童向けプレゼンテーション用教材イメージ

<p style="text-align: center;">1</p>  <p>小学校 児童専用</p> <p>親子のための ネット社会の歩き方</p> <p>日時： 年 月 日 () 講師：</p> <p>小学校 児童向けのプレゼンテーション資料です。</p>	<p style="text-align: center;">2</p>  <p>はじめに</p> <p>近くの人と 「4人グループ」 を作ってください。 100までの数字の中から 「好きな数字」 を1つ決めてください。</p> <p>○今日は、グループで話し合いなどをしますので、最初にグループを作ります。近くの人と4人のグループを作ってください。4人にならないところは、3人でも5人でも結構です。</p>
<p style="text-align: center;">3</p>  <p>はじめに</p> <p>おたがいに、数字を紹介してください。</p> <p>12 95 36 7</p> <p>○グループができましたか、それでは、100までの数字の中から好きな数字を1つ決めてください。決まったら、グループの友だちに紹介してください。</p>	<p style="text-align: center;">4</p>  <p>はじめに</p> <p>おたがいに、数字を紹介してください。</p> <p>一番少ない数字を言った人</p> <p>36 はい!</p> <p>話し合いのときに司会をしてください。</p> <p>○一番少ない数字を言った人が、話し合いのときに司会をしてください。</p>

1. ケータイがあれば、楽しい世界

ケータイ・パソコンがあれば！

広がる♪ つながる!!
楽しい世界!!



★携帯電話のことを「ケータイ」と言っています。

- 便利だから
- まかの人（ママ）がもっているから
- 楽しそうだから
- 音楽がさけるから などなど
- かっこいいから
- 中高生が持っているから
- ゲームができるから
- 友だちと電子メールがしたいから など

○ケータイやインターネットがあると、どんな便利なことがあるのでしょうか。どんな楽しい世界があるのでしょうか。

○このセミナーでは、携帯電話のことを「ケータイ」と言っています。 ※右上の「テキスト p.2」: CBC作成情報モラルテキスト「親子のためのネット社会の歩き方」の掲載ページです。

※手を挙げて発表してもらおう。また、時間短縮のために、プレゼンの下の部分を最初から出して、こちらから紹介しても良い。

※テキストを使う場合は、p3の「きみは、ケータイ・パソコン についてどう思う？」の欄に一言書きましょう。

○何人かに発表してもらいましょう。(数名を指名し発表させる)

2. ケータイは、夢のツール！

マンガやアニメ、SFの世界で
夢のツールだったことを
ケータイが実現

- いつでも
- どこでも
- 小型
- いろいろな機能が
がついている
- 困ったときに役に立つ



○漫画やアニメやSFの世界の夢のツールだったことをケータイが実現しました。

○いつでも、どこでも、小型で、色々な機能がついて、困ったときに役に立つ。そんなアニメやSFの世界だけだった夢のツールが実現したのです。

3. ケータイは、便利なツール！

★電子メールだと、今連絡してよいか
どうか心配しなくてもよい

★ポケットに入る

★外国の友だちと連絡できる

★いろいろなツールがある



仕事のメモ、写真、動画、ニュース、
テレビ、天気予報、地図、電車、
電子メール、ホームページ、電卓、辞書、
ゲーム、音楽、ブログ、プロフ、掲示板、
チャット、外国語の翻訳 など

※便利なツールであることを紹介する。

※自身の体験や、最近の事例などを話すとい。

4. 光と影（かげ）の2つの面

ケータイ・ネット社会は便利だが
光と影の2つの面がある

光 便利・役立つ
おもて

影 不便・害・危険
うら

○このように、ケータイ・ネット社会は便利ですが、実は、「光と影」の2つの面があるのです。

○光の部分は、表の部分です。便利で役に立つ道具です。

※テキストを使う場合は、p2・p3を開く。

○影の部分は、裏の部分です。不便で、害があって、危険でもあります。

※テキストを使う場合は、p4・p5を開く。

○車を考えてみましょう。車は、便利ですが、毎年何千人もの人が交通事故でなくなっています。1万人を超えて、日露戦争の死者よりも多くなって、「交通戦争」と言われました。

○包丁もそうですね。便利で役立ちますが、人を傷つけたり殺したりする事ができます。

○だからと言って、車をなくしましょう、とか包丁を使わないようにしましょう、ということにはなりませんね。

○二つの面があることを知っておくことが大事なのです。

話し合い ①

もしあなたが
透明人間（とうめいにんげん）に
なったら、何をしますか？
何をしたいですか？

 話し合いタイム 5分

○ここで、話し合いをしてもらいます。
○先ほどのグループに分かれて、話し合ってもらいます。テーマは、「もしあなたが透明人間になったら何をしますか、何をしたいですか」です。
○話し合う時間は、5分です。では始めてください。
※次ページに「5分間カウントダウンタイマー」をご用意しました。適宜ご利用ください。

(5分たったら)

○話し合いをやめてください。

話し合いタイムは終わりです。
2番目に少ない数字を言った人は
発表してください。

○話し合いタイムは終わりです。
○2番目に少ない数字を言った人は発表してください。
※いくつかのグループを指名し発表させる。
※顔が見えない、正体がわからない、というときには、人間の悪い面が出てくることに気づかせる。

5. 顔が見えない

◎匿名性（とくめいせい）
本当の名前ではない



◎非対面性（ひたいめんせい）
直接会わない



とうめいにんげんびょう
透明人間病

○インターネットやケータイでは、パソコンやケータイの先には人間がいるのですが、ほとんどの場合顔が見えません。これを「匿名性（とくめいせい）」と言います。
○また、直接会わなくても連絡ができますが、これを「非対面性（ひたいめんせい）」と言います。
○とても便利なのですが、逆に顔が見えなかったり、会わなかったりすると、困ったことが起こったり、悪いことを考えたりします。ちょうど、今考えてもらったように「透明人間」のようになります。
○これを「透明人間病」と呼んでいます。人間は正体がわからないとろくな事をしないし、考えもしないのです。

6. 匿名性（とくめいせい）

テキスト
P. 6 - 11 - 16

本当の名前ではない



○匿名性（本当の名前ではない）が原因で起きるトラブルを紹介しましょう。
○ネット社会では、本当の姿を隠して参加できます。プロフ・SNS・コミュニティサイトといったサイトでは、ほとんど本当の名前を使いません。簡単に信用するのは危険です。
○姿が見えないことをよいことに、悪口を書いたり、いじめをしたりする人がいます。学校の裏サイトなどは見ない方がよいでしょう。
○さっきとは逆に、姿が見えないことで、あなたがいたずらや悪い事をしてしまうこともあるのです。
※テキストを使う場合は、p6・p11・p16を開く。

1 3

7. 非対面性 (ひたいめんせい)

テキスト
p. 10 - 12

直接会わない



14

- 直接会わないことでトラブルが起こる場合があります。顔が見えないことで、人が迷惑する電子メールを送りつける人がいます。ひどい場合はパソコンが壊れることもあります。知らない人からのメールは無視しましょう。
- 顔をあわせないと、ほんの軽い気持ちで陰口を言い合ったりすることがあります。でもそれがネットいじめになることもあるのです。※テキストを使う場合は、p10・p12を開く。

1 4

話し合い ②

もしあなたに
次のような電子メールが
届いたら、どうしますか？

15

- ここで、また話し合いをしてもらいます。
- 先ほどのグループに分かれて、話し合ってもらいます。テーマは、「もしあなたに、次のような電子メールが届いたらどうしますか？」です。

1 5



このメールは「不幸のメール」です。
このメールを受け取ってから、
3時間以内に、5人の人に、
同じ内容でメールを送らないと、
あなたに悪いことがおきて
「不幸」になります。



話し合いタイム 5分

16

- 話し合う時間は、5分です。では始めてください。
- ※次ページに「5分間カウントダウンタイマー」をご用意しました。適宜ご利用ください。

(5分たったら)

- 話し合いをやめてください。

1 6

話し合いタイムは終わりです。
3番目に少ない数字を言った人は
発表してください。

18

- 3番目に少ない数字を言った人は発表してください。
- ※いくつかのグループを指名し発表させる。
- ※迷惑メールの存在に気づかせる。
- ※不安になって他の人に回すと今度は自分が迷惑メールを送ることになることに気づかせる。

8. ネット社会も、人の社会



顔は見えないが
ケータイやパソコンの
向こう側には人がいる

- ◎大人の世界とつながっているのが「ネット社会」
- ◎いじめ・いたずら・うそ・^{ほんま}犯罪もある世界が「ネット社会」

19

- ケータイやパソコンの向こう側には顔は見えない人がいるのです。
 - 人がいるということは、大人の世界とつながっているのです。
 - ネット社会が大人の世界につながっているということは、いじめ・いたずら・うそ・犯罪もある世界にもつながっているということなのです。
 - 例えば、プレゼントがもらえるからと、ネット上で、名前や住所、電話番号を入力すると、悪用されることがあります。
 - また、ネット上には、子どものおさわしきないサイトや気分が悪くなるような画面が出てくるサイトなどもあります。
 - 「登録が無料」というメールが届いたり、興味があるからと、うっかり登録したりすると、ニセモノのサイトにつながり被害に遭うこともあります。
 - ケータイやパソコンの向こう側には、人がいること、大人の世界とつながっていることを忘れないようにしましょう。
- ※テキストを使う場合には、p7・p8・p9を開く。

話し合い ③

あなたは
次のようなことを
どう思いますか？

20

- ここで、また話し合いをしてもらいます。
- 先ほどのグループに分かれて、話し合ってもらいます。テーマは、「あなたは、次のようなことをどう思いますか？」です。

友だちとけんかをした。頭にきたが、直接言うのはいやなので、友だちのブログに悪口を書きこんでやった。それでもすっきりしなかった。自分のメル友みんなに、けんかした友だちの悪口を送って、やっとすっきりした。

話し合いタイム 5分

21

- 話し合う時間は、5分です。では始めてください。
- ※次ページに「5分間カウントダウンタイマー」をご用意しました。適宜ご利用ください。

(5分たったら)

- 話し合いをやめてください。

話し合いタイムは終わりです。
4番目に少ない数字を言った人は
発表してください。

22

- 話し合いタイムは終わりです。
- 4番目に少ない数字を言った人は発表してください。
- ※いくつかのグループを指名し発表させる。
- ※顔が見えない、正体がわからない、というときには、人間の悪い面が出てくることに気づかせる。

9. ダメなものはダメ

◎私たちが生活している社会でダメなものは、ネット社会でもダメ

- ×人を傷つける
- ×人に迷惑をかける



◎政府も警察もない世界がネット社会だが、それぞれの国の法律は適用される

○ネット社会のルールは複雑でわからない、と感じた人もいたことでしょう。でも、実は、私たちが生活している社会でダメなものはネット社会でもダメなんです。

○人を傷つけたり、人に迷惑をかけたことなど、「ダメなもの」はダメなんです。

○ネット社会には、政府も警察もないのですが、実際に被害があると、それぞれの国の法律は適用されます。

○例えば、時間や場所もかまわず、ケータイを使うようになるとうとうでしょうか。周りも迷惑ですが、自分もまともな生活はできなくなります。

○ウソやデタラメ「だめ」です。

○面白いから、自分が良いと思うから、と勝手に他の人の写真を使うのも「だめ」なんです。

○友だちのかいた絵や文章を勝手に使ったり、他の人のホームページを勝手に使ったりするのも「だめ」なんです。

○私たちが住んでいる社会で「ダメなものはだめ」なんです。

※テキストを使う場合には、p13・p14・p15・p16を開く。

10. 知っておこう

テキスト
p. 17・18・19

◎ネット社会特有の危険やトラブルがあり、次々と生み出されている

- ・フィッシング詐欺
- ・不当請求
- ・出会い系サイト
- ・コミュニケーションサイト

◎トラブルに巻き込まれたときは

一人で
なやまないで

- ・親や先生に相談する
- ・相談にのってくれる窓口や組織を利用する

○コンピュータウイルスや迷惑メール、フィッシング詐欺や不当請求、出会い系サイト、などなど、ネット社会特有の危険やトラブルがあります。しかも次々と新しい(異なる)危険が生み出されています。交通ルールを覚えるように、しっかり学んで身を守りましょう。

○トラブルに巻き込まれたとき、誰に相談しますか。親や先生に相談するのはもちろんですが、相談にのってくれる窓口や組織がたくさんあります。一人で悩まないで。

※テキストを使う場合には、p17・p18・p20を開く。

11. 人間関係を大切に

テキスト
p. 18・19

◎ケータイ依存症、ネット中毒など、ネットやケータイを使いすぎて、まともな人生を失う人が多くなっている

◎ネットやケータイをどう使ったらよいか考えよう！

◎ネット社会だけで良いわけがありません！

◎「直接会う」「顔が見える」人間関係も大切にしよう！



○ケータイ依存症やネット中毒など、使いすぎてまともな人生を失う人が多くなってきています。どう使ったらよいか考えましょう。ネット社会だけで良いわけがありません。

○顔を合せてお話をしたり、遊んだりすることは大事です。直接会わなくても話ができたり、連絡できたりして便利だけれど、直接会う顔が見える人間関係も大切にしよう！ ネットやケータイだけで良いわけはありません。

※テキストを使う場合には、p13・p19を開く。

まとめ

今日いっしょに学んだことを
ふり返ってみましょう。



○まとめです。

ネット社会とは

①便利な道具だが
光と影（2つの
面）がある



②大人の社会と
つながっている

○ネット社会とは

- ①便利な道具だが光と影、2つの面がある
 - ②大人の社会とつながっている
- 社会なのです。このことを忘れないでください。

ネット社会で注意すること

- ①顔が見えない（匿名性、非対面性）
- ②顔は見えないが、ケータイやパソコンの向こう側には人がいる
- ③ダメなものはダメ
- ④ネット社会特有の危険やトラブルがあることを知っておこう
- ⑤人間関係を大切に



○ネット社会で注意することは、次の5つです。

- ①顔が見えないので、匿名性や非対面性に注意しよう
- ②顔は見えないがケータイやパソコンの向こう側には人がいる
- ③ダメなものはダメ
- ④ネット社会特有の危険やトラブルがあることを知っておこう
- ⑤人間関係を大切に

ネット社会で生きていくのに 一番大切なことは

身近な家族 日々の挨拶
身近な友だち 日々の会話
身近な先生 日々の生活



○ネット社会で生きていくのに一番大切なことは、

「身近な家族、身近な友だち、身近な先生」です。

そして、「日々の挨拶、日々の会話、日々の生活」が大事なのです。

※テキストを使う場合には、p2・p3とp4・p5を比較する。

※p5「きみは、ケータイ・パソコンをどんなふうに使おうと思った？」の欄に、一言書かせるのもよい。

「親子のためのネット社会の歩き方セミナー」実施報告書

発行・著作 財団法人コンピュータ教育開発センター

〒108-0072 東京都港区白金1丁目2-7番6号

TEL 03-5423-5911 (代表)

FAX 03-5423-5916

<http://www.cec.or.jp/CEC/>



Center for Educational Computing